



株式会社 UACJ

ESG 説明会

2022 年 11 月 29 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ
[企業 ID]	5741
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	投資家カンファレンス
[イベント名]	ESG 説明会
[決算期]	
[日程]	2022 年 11 月 29 日
[ページ数]	89
[時間]	10:00 – 12:05 (合計：125 分、登壇：87 分、質疑応答：38 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	106
[登壇者]	6 名 代表取締役 社長執行役員 石原 美幸 (以下、石原) 取締役 常務執行役員 田中 信二 (以下、田中) 専務執行役員 山口 明則 (以下、山口明則)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員 隈元 穰治（以下、隈元）

経営戦略本部 サステナビリティ推進部 主査

野瀬 健二（以下、野瀬）

財務本部 IR 部長

上田 薫（以下、上田）

[アナリスト名]*

SMBC 日興証券

山口 敦

UBS 証券

五老 晴信

モルガン・スタンレーMUFG 証券

白川 祐

野村証券

松本 裕司

大和証券

尾崎 慎一郎

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

上田：お時間となりましたので、これより説明会を開始いたします。本日はお忙しい中、株式会社 UACJ、ESG 説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めます財務本部 IR 部長、上田薫でございます。どうぞよろしくお願いたします。

この説明会は、弊社のホームページに掲載されております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですが、ホームページをご覧ください。

また、議事の記録のため、本説明会の録画、録音をしております。説明会の内容については、後日、当社ホームページにて公開いたしますので、ご出席者の皆様による録画、録音はご遠慮くださいますようお願いいたします。

また、この説明会では、将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因による実際の業績が、これら将来予測と大きく異なる場合がありますので、ご注意ください。

終了は 12 時を予定しております。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、初めのプログラムにまいります。代表取締役、社長執行役員、石原美幸です。

石原社長、よろしくお願いたします。

石原：石原でございます。皆さん、おはようございます。当社にとって初めてとなる ESG 説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

これまで決算説明会や IR-Day、そのほかの当社出展のイベントにおいて、さまざまな機会を通じて、アルミニウムの持続可能性について、アルミ事業を行う当社としての取り組みについてお話をしてまいりました。

今日は、「100 年続く軽やかな社会のために」をテーマとして、皆様に当社の ESG に関する具体的な考え方や取り組みについて、各担当役員から後ほどお話をさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





サステナビリティを中心に据えた UACJの企業経営

代表取締役社長
石原 美幸

©UACJ Corporation. All rights reserved.



企業経営の中心にサステナビリティを据えて

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



©UACJ Corporation. All rights reserved.

企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

1

では、初めに私から、「サステナビリティを中心に据えた UACJ の企業経営」についてお話を申し上げます。

2013 年の経営統合以来、UATH 等、海外生産拠点の拡大と、自動車部品における M&A 実施などで、当社グループ社員のバックグラウンドは多種多様になってまいりました。UACJ は誰の何のため

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



に事業を行うのか。いわゆる社会における存在意義、パーパスを見直し、2020年2月にグループ理念の再定義を行い、発表いたしました。

「素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。」という企業理念は、銅やアルミニウムという金属素材が持つ機能や特性を引き出す技術、すなわち「技」と「術」を競争力の源泉とし、持続的かつ文化的な豊かさを感じる社会の実現に貢献をしていこうという、われわれの決意を表しています。

さまざまなバックグラウンドを持つ社員が掲げた理念に向かうための行動指針である羅針盤として「UACJ ウェイ」をまとめ、私を先頭にして、各役員や事業の長が社長直属の組織である「新しい風土をつくる部」を推進役として、毎年延べ1,000人を超える従業員を対象に対話会を実施しています。それにより、この理念の浸透を図っています。意識は確実に良い方向に向かっていると実感しています。

UACJ グループ自身が持続可能であり続け、社会の中で活躍していくという、いわゆる企業理念の実現のために、ESGの視点を経営の中心に据える必要性を肌で感じ取っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



「100年後の軽やかな社会のために」

サステナビリティ基本方針

1

受け継いできた叡智と情熱で

創業以来の探求心と、技術と知恵を結集したイノベーションにより便利な社会、持続可能な地球環境を追求します。

2

すべてのステークホルダーの皆さまとともに

事業を通じて向かい合う関係者はもとより、いろいろな形で関わりあう社会を思い、グループ内外の人々と協調、協働して持続可能な世界への貢献を実現します。

3

一人ひとりの多様な個性で

国籍、性別、年齢、障がいの有無などの違いに関わらずさまざまな人材を尊重し、その考えやスキルを活かすことで、既成概念にとらわれない自由な発想で課題解決に取り組みます。

© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

当社の主要な製品であるアルミニウムは、金属元素としての埋蔵量は最も多く、その持つ機能、性能からも、これからの持続可能性な社会の実現のために必要不可欠な素材であり、そのアルミニウム製品を社会に供給する当社も持続可能な存在であることが求められます。

当社は、アルミ圧延事業を始めて、120年を超える実績があります。次の100年に向けても、サステナビリティを経営の根幹に据えることにより、「100年後の軽やかな社会のために」とした「サステナビリティ基本方針」を策定し、実行してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2030年、UACJがやりたい姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ



「アルミニウムを究めて、軽やかな世界を実現する」という、2030年に当社グループとしてやりたい姿を「UACJ VISION 2030」として決めました。

「UACJ VISION 2030」では、グループの10年後を担う中堅社員で結成したビジョン委員会が、モビリティ、ライフスタイル・ヘルスケア、環境・エネルギーの三つの貢献領域を定めて、今どのように貢献していくかということバックキャストで考えてくれました。

その結果、今のUACJグループが戦略的に獲得してきた「多彩な加工力」、そして、「板製品の世界3極からの供給」、そして「グローバルでの強固な顧客基盤」、こういう3つの大きな強みに、素材の上流と下流における「素材+αの付加価値の追求」という新しい強みを加えていき、新領域での社会課題の解決に向かって取り組んでまいります。

ビジョン委員会で描いた3つの新たな領域においては、SDGsの4つのターゲットにもつながっています。それらの実現のために、私たちは6つの重点課題、いわゆるマテリアリティを特定しました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

長期経営ビジョン “UACJ VISION 2030”

持続可能で豊かな2030年社会の実現に向けた、UACJの貢献を描く将来ビジョン

<外部環境変化から予想される未来の社会>

社会構造の変化	持続可能な社会の実現	技術革新
<ul style="list-style-type: none">◆ 新興国の経済成長による購買力と需要の向上◆ 人口減少による国内の市場縮小	<ul style="list-style-type: none">◆ 社会全体で地球環境を保護する意識の高まり◆ 豊かな社会と持続可能な社会の両立へ	<ul style="list-style-type: none">◆ モビリティ革命による素材の新たな用途が拡大◆ デジタル技術の革新によるビジネスモデルの変化

UACJ VISION 2030

- **成長分野**や**成長市場**の需要捕捉により、より広く社会の発展に貢献する
- **素材+ α** で、バリューチェーン及びサプライチェーンを通じた社会的・経済的な価値の向上に貢献する
- **新規領域***への展開により、社会課題の解決に貢献する
- 製品ライフサイクルでの**CO₂削減**により、環境負荷の軽減に貢献する

© UACJ Corporation. All rights reserved.

*新規領域：これまでにない、またはUACJにとって新しいビジネスモデル＝新規領域での新たな事業・製品。また既存領域での新たな製品カテゴリを創出することを目指す

4

外部環境から予想される 2030 年の社会で、企業理念の実現を目指して、当社がどのように貢献していきたいかということを描いたのが、「UACJ VISION 2030」なのです。

「VISION 2030」では、既存領域に加えて、新しい3つの領域でどんなことをやっていこうかということを決めました。それは、次の4つです。

成長分野、成長市場において、素材+ α の力を発揮し、新規領域、あるいは新しいビジネスモデルを通して、そしてCO₂を削減していくというこの4つであります。これらをUACJへの貢献として定義をし、それぞれの貢献に向かって、具体的な取り組みをさまざまに行っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



第3次中期経営計画策定時からのあゆみ

「コーポレートスローガンの策定」が、UACJグループにおけるサステナビリティ経営のスタート地点



5

当社は、サステナビリティ経営と表明はしていなくても、これまでも持続可能な成長のためにさまざまな取り組みを重ねてまいりました。

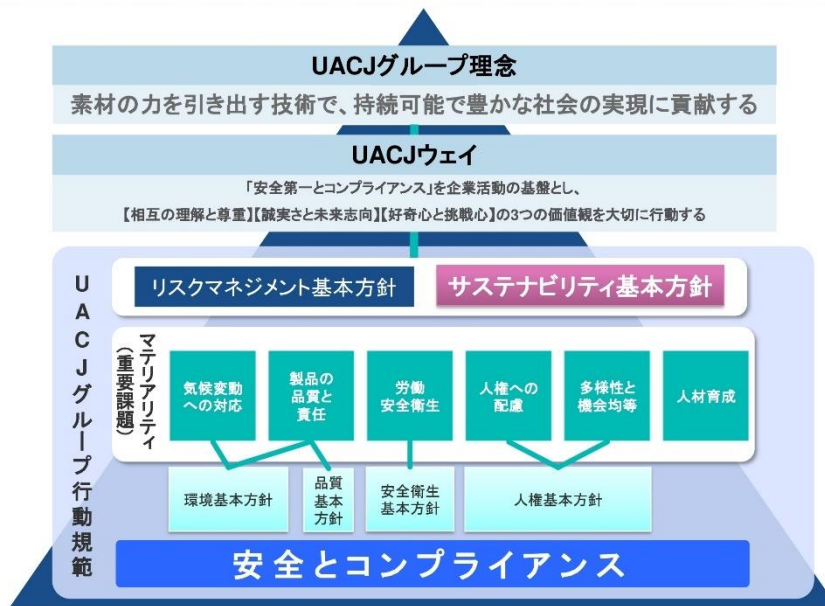
しかしながら、2021年2月のコーポレートスローガンの公表を契機に、サステナビリティを経営の根幹に据えるのだということ、経営の中心に据えるのだということ、あらためて共通認識としております。

ESGの各項目について、考え方と取り組み内容はそれぞれの担当役員から後ほど説明をいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

理念実現のための行動指針



6

サステナビリティを経営の中心に据える。それはどういうことかと申しますと、その実践のひとつとして、UACJグループの新しい姿を、構造改革の名の下に構築実行してまいりました。加えて、将来像を「VISION 2030」という形で表したわけです。いわゆるターゲットが見える化しました。

そして、そのターゲットを実現するために、企業理念を定め、その柱として羅針盤「UACJウェイ」を作り、それを、浸透活動を通して、従業員とともに共有してまいりました。コーポレートメッセージである「アルミでかなえる、軽やかな世界」を企業理念に合わせて、基本方針を明確にいたしました。

その結果、近年の企業活動の複雑化、そして高度化、これに必要十分に伝えてまいりるために、グループ全員で足並みをそろえて、一貫した考えの下、一人ひとりが、わがこと、いわゆる自分のこととして行動できるようにしたつもりです。全ては社会のさまざまな人々のために行動しようというものです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



マテリアリティ(重要課題)とKPIの設定

2030年で描いた姿に到達するため、積極的な取り組みを進める

マテリアリティ	評価指標	2021年度実績	2023年度目標	2030年度目標
気候変動への対応	サプライチェーン全体でのCO ₂ 排出量の削減量	気候変動対策推進委員会の立ち上げ、中長期目標の設定	2030年度目標に向けての具体的な施策の立案と実行	・Scope1, 2: 30%削減(2019年度比・原単位) ・Scope3: サプライチェーンの様々なパートナーとの協業によるリサイクル最大化、かつサプライチェーン全体でのCO ₂ 排出量最小化
製品の品質と責任	重大品質不具合件数 客先クレーム件数(素材有責)	4件 19.9%減(前年度比)	1件以下 前年度比10.0%	ゼロ 2020年度比半減
労働安全衛生	重篤災害発生件数 総合度数率	ゼロ 0.25	ゼロ 0.25	ゼロの継続 0.08
人権への配慮	人権デューデリジェンス実施と、結果を踏まえた目標づくり、アクションプランの実行 行動規範、人権、ハラスメント関連の教育実施率	2製造所で実施 90% (ハラスメント防止研修は100%実施率継続)	4製造所で実施 96% (ハラスメント防止研修は100%実施率継続)	当社グループの国内および海外の主要な事業所で実施 100%
多様性と機会均等	管理職(役員含む)に占める女性比率	2.2%	4.0%	15%以上 (最低15%を目標とし、政府目標30%を可能な限り目指す)
人材育成	後継候補者計画の実施率 重点分野に関する教育支援活動の受益者数	課長職以上(単体)100% 446人/年	国内グループ会社に展開 800人/年	100% 1000人/年

© UACJ Corporation. All rights reserved.

7

マテリアリティの具体化については、スライドに示すとおりです。

マテリアリティは、UACJグループの社員、役員においてワークショップをつくり、検討してまいりました。そして、外部専門家を第三者の意見として取り入れ、そして6つに特定したわけです。

海外からは、人権への配慮が欠かせないね、という意見が多く出ました。6つのマテリアリティは、SDGsの4つのゴールに結びついており、グループ全員でこれから強力で推進していくべく、KPIを定めています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



マテリアリティ(重要課題) - 気候変動への対応

選定理由	<ul style="list-style-type: none">➢ アルミニウムの特性を活かした製品とサービスの提供を通じて社会全体でのCO₂削減に貢献できる。➢ アルミニウムのリサイクル特性を活かし追求することが、サプライチェーン全体の温室効果ガス発生抑制につながり、社会貢献度が高い。
評価指標	サプライチェーン全体でのCO ₂ 排出量の削減量
2021年度実績	気候変動対策推進委員会の立ち上げ、中長期目標の設定
2023年度目標	2030年度目標に向けての具体的な施策の立案と実行
2030年度目標	<ul style="list-style-type: none">➢ Scope1・2 30%削減➢ Scope3 サプライチェーンのさまざまなパートナーとの協業によるリサイクル最大化、かつサプライチェーン全体でのCO₂排出量最小化

© UACJ Corporation. All rights reserved.

8

特に、当社アルミニウム事業と親和性の高いのが気候変動への対応です。

現在、重点的に取り組みを進めております。リサイクル特性を活かすことが、CO₂排出量の削減につながるということは言うまでもありません。アルミニウム特性として、機能、そして特性を活かした製品を、そしてサービスを提供して、より多く利活用されることが、社会全体においてCO₂排出抑制に貢献できるのです。2030年の目標達成を目指して、私たちは積極的に取り組みます。

サポート

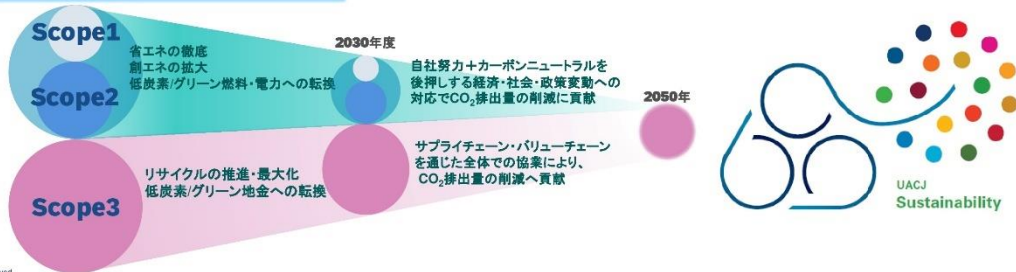
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2050年 カーボンニュートラルに向けて

活動指針

- Scope1・2においては、2050年カーボンニュートラルへ挑戦
- Scope1・2においては、2030年度 30%の削減を目指す
- Scope3においては、サプライチェーンの様々なパートナーとの協業に取り組み、リサイクル最大化、かつ、サプライチェーン全体でのCO₂排出最小化を目指す

Scope別のCO₂排出量と今後の削減イメージ



9

施策の一つとして、方針を公表しているのがカーボンニュートラルへの挑戦宣言です。

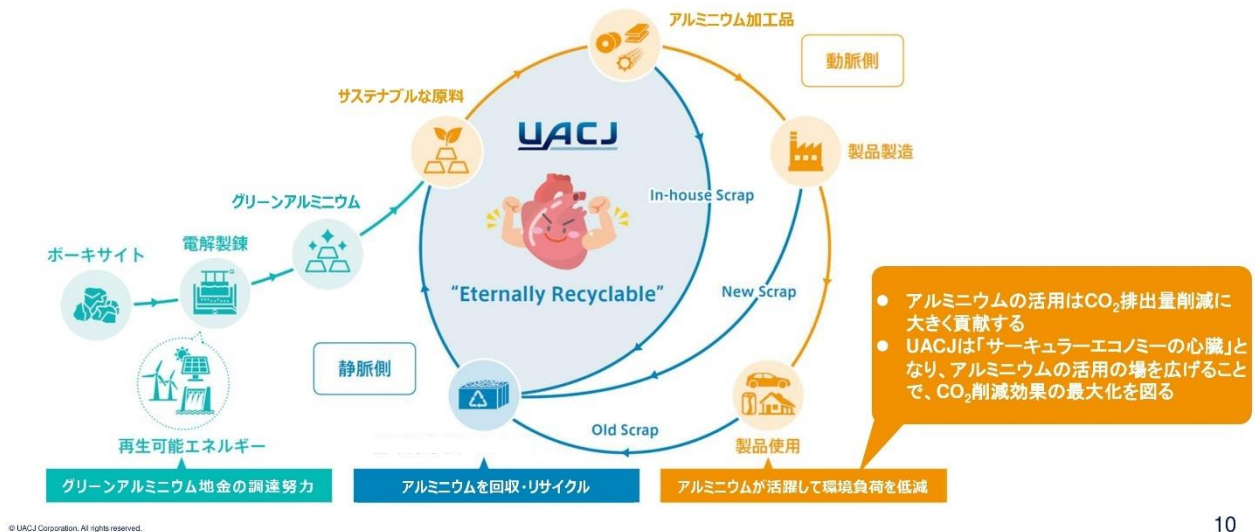
6月のIR-Dayにおいてもお伝えしていますとおり、2050年におけるScope1・2におけるカーボンニュートラル、これに挑戦するという事に具体的に取り組んでおります。このあとの環境のセッションにおいて、具体的にご説明申し上げますが、アルミニウム製品のリサイクルの最大化、かつサプライチェーン、バリューチェーン、この全体においてCO₂をどう減らしていくかが重要です。これから取り組みを加速させてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

軽やかな世界の実現への貢献：アルミでつくる循環の輪

循環型サプライチェーンの形成を主導し、アルミニウムを通じた環境価値を提供



10

「100年後の軽やかな世界」の実現に向け、当社が果たし得る最大の貢献は、アルミ製品のサーキュラーエコノミーの構築にあるわけです。アルミは、流通、利活用されることをされればされるほど、製品としての機能、性能を発揮します。いわゆる省エネルギー性、省燃料性、そして高寿命といったものもうたわれます。どんどん活用されることによって、さらにこれが活かされます。利用されればされるほど、その価値は増大するのです。このアルミの活用の取り組みを強化してまいります。

UACJグループは、アルミの溶解プロセスというものを有しております。この動脈と静脈、これの始点と終点になる、そういう役割を通じて、この循環の心臓となって、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様とともに共創しながら、協力して、創造していきながら、リサイクルループを構築して、そしてリサイクル率を上げ、サプライチェーンやバリューチェーンを通じて、アルミニウムがどんどんライフサイクルで利用価値を含めて評価される、そんな仕組みをつくってまいります。

循環資源型経済による環境負荷軽減、これにグローバルで貢献してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



100年に亘り究めてきた「技」と「術」を集結し、アルミの可能性を拓ける

1910 古河電気工業がアルミニウム電線の研究開始

1939 ドイツから水冷DC鋳造法技術導入

1990 日本初オールアルミ製ポディバル材納入

1970 日本初オールアルミ缶材納入

1980 スカイアルミニウム㈱設立

1959 住友軽金属工業㈱設立

1974 高速道路のアルミ高欄開発

2003 航空機用新合金開発 (AA登録)

2003 経営統合して古河スカイ㈱設立

2007 LNGタンク用材料開発

2013 UACJ 発足

1998 「住友伸銅場」においてアルミニウム圧延事業開始

1935 住友金属工業㈱設立

1935 超ジュラルミン製造開始

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

100年を超える歴史を持つ当社グループが、これからの100年も必要とされる企業であり続けるために、アルミニウムの可能性を広げてまいります。どうぞご期待ください。

皆様のご支援をあらためてよろしくお願い申し上げます。

私からは以上です。ありがとうございました。

上田：石原からのご説明は以上となります。石原さん、ありがとうございました。

続きまして、「持続可能で軽やかな社会の実現へ」、についてご説明申し上げます。取締役常務執行役員、気候変動対策推進担当、田中信二です。

田中さん、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



持続可能で軽やかな社会の実現へ

取締役 常務執行役員
田中 信二



UACJグループ環境管理活動スローガン

緑豊かな青い地球に感謝し、
アルミニウムを究めて、
持続可能な社会形成に貢献しよう。

1

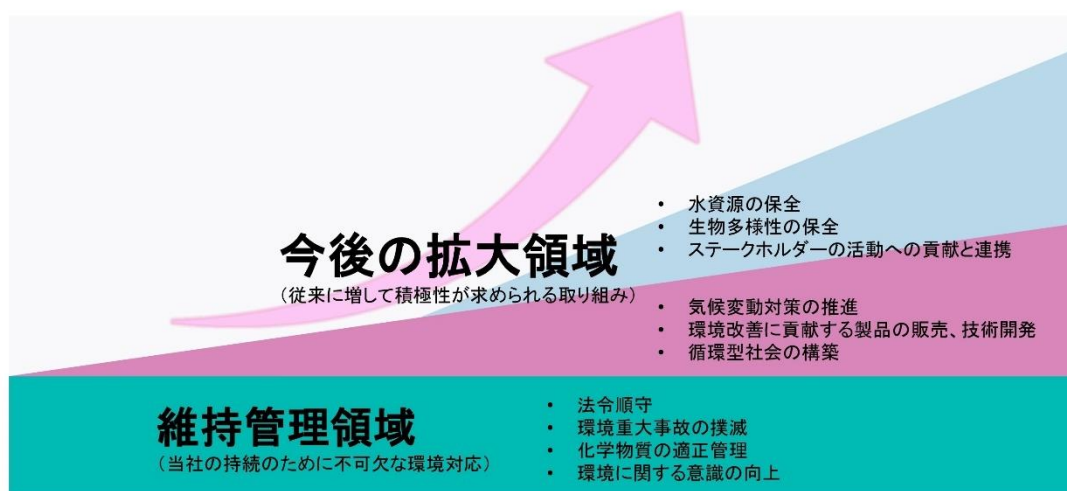
田中：田中でございます。引き続きまして、「持続可能で軽やかな社会の実現へ」ということで、UACJグループにおける気候変動の取り組みを中心とした環境活動についてご紹介させていただきます。

UACJグループの環境管理活動スローガンは、「緑豊かな青い地球に感謝し、アルミニウムを究めて、持続可能な社会形成に貢献しよう。」であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

守りの環境対応に加え、攻めの環境対応に拡大



© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

UACJ グループの環境対応の説明をいたします。

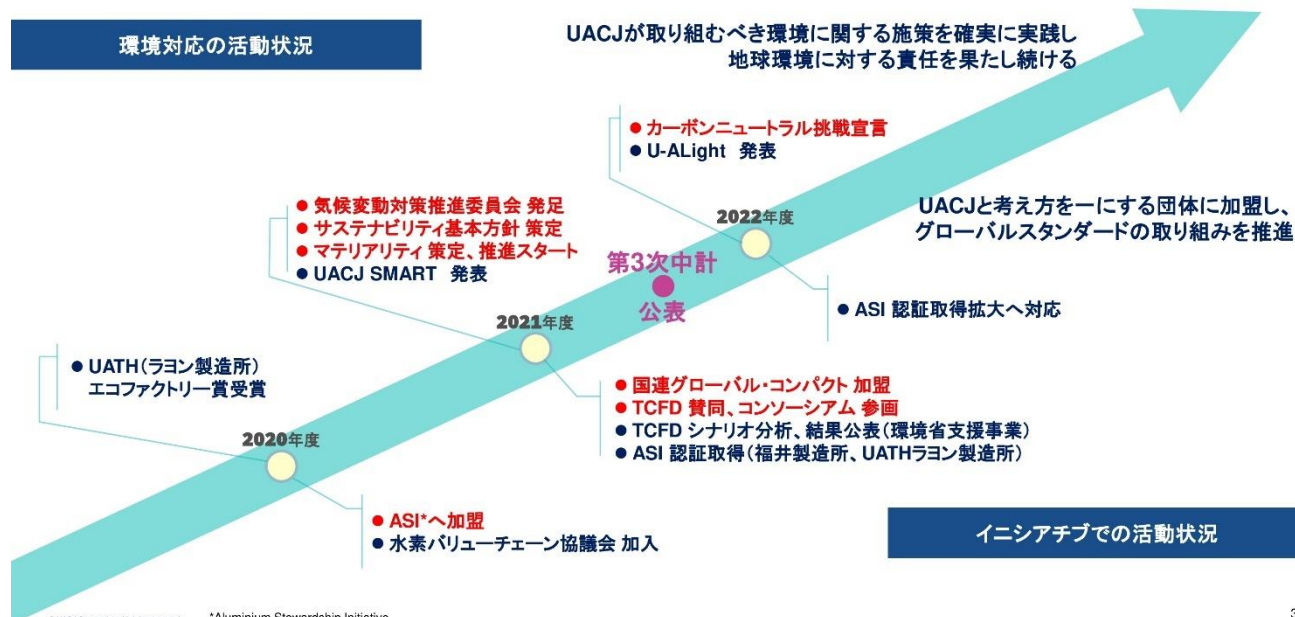
この絵の中にありますように、緑の部分、一番下の土台の部分。これまではどちらかということ、法令遵守であったり、環境対策であったり、環境異常対策であったり、維持管理活動が重点的な活動となっておりました。

今、足元におきましては、重点的に求められております気候変動対策であったり、あるいは今後はさらに水資源の保全であったり、さらには生物多様性の保全、こういったものに向けた活動の領域を拡大していくということで進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

環境対応活動年表



3

こちらが、UACJ グループにおける環境対応の活動年表となっております。

まず 2020 年度におきましては、日系のアルミニウム圧延会社としては初めての ASI、Aluminium Stewardship Initiative への賛同を表明いたしました。

2021 年度におきましては、UACJ グループを横断する気候変動対策推進委員会を設置いたしました。さらに、国連グローバル・コンパクトへの加盟、TCFD への賛同表明を行っております。

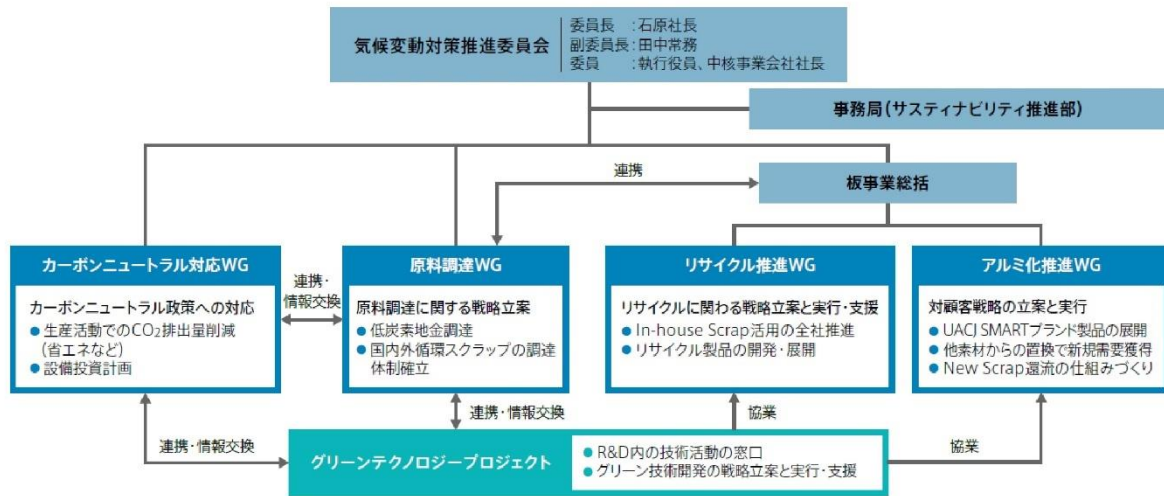
さらに、先ほどもありましたとおり、2022 年の 6 月におきましては、カーボンニュートラルへの挑戦宣言を行っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

気候変動対策推進委員会の立ち上げ

グループ横断で、環境負荷の最小化とCO₂削減、カーボンニュートラル挑戦に向け精力的に活動



© UACJ Corporation. All rights reserved.

4

それでは、これからそれぞれの活動につきましてご紹介させていただきます。

はじめに、気候変動対策推進委員会の立ち上げになります。

こちらの推進委員会では、社長の石原を委員長といたしまして、4つのワーキング・グループの活動を展開しております。カーボンニュートラル対応、原料調達ワーキング・グループ、リサイクル推進、アルミ化推進、こういった4つのワーキング・グループを、UACJグループ全体横断で活動を展開いたしまして、環境負荷の最小化、CO₂の削減、こういった活動を推進しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



UACJグループ環境基本方針の見直し

「環境基本方針」を見直し、気候変動への取り組みのさらなる推進を宣言



2022年2月 追加
「パリ協定の目標達成に貢献するため、
温室効果ガス排出量削減と
省エネルギーに努め、気候変動対策を推進」

© UACJ Corporation. All rights reserved. 出典: 当社HP <https://www.uacj.co.jp/sustainability/environment/management.htm>

5

さらに同時に、UACJグループ全体の活動基本方針の見直しとして、2022年2月には、ちょうどこのスライドの赤枠で囲っておりますが、行動指針のところにこういった文言を追加しております。「パリ協定の目標達成に貢献するため、温室効果ガス排出削減量と省エネルギーに努め、気候変動対策を推進する」といった文言です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

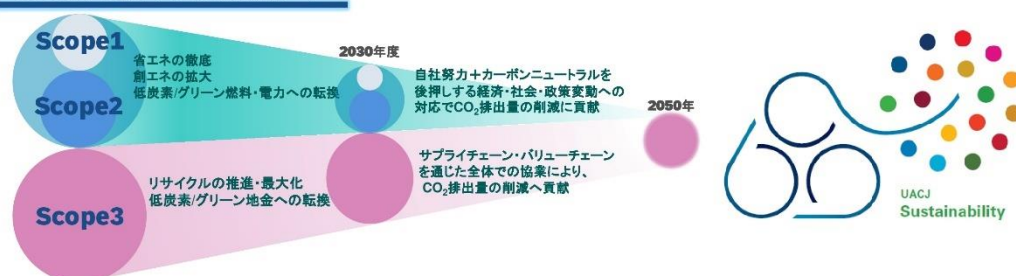


2050年 カーボンニュートラルに向けて

活動指針

- Scope1・2においては、2050年カーボンニュートラルへ挑戦
- Scope1・2においては、2030年度 30%の削減を目指す
- Scope3においては、サプライチェーンの様々なパートナーとの協業に取り組み、リサイクル最大化、かつ、サプライチェーン全体でのCO₂排出最小化を目指す

Scope別のCO₂排出量と今後の削減イメージ



6

気候変動対策推進委員会での活動の進展、あるいは先ほど言った環境基本方針の見直しに伴い、あらためて2050年度のカーボンニュートラルに向けて、活動方針を宣言しております。

先ほど来よりもありますとおり、Scope1・2におきましては、2050年度カーボンニュートラルへ、それから、その過程にある2030年度においては、Scope1・2において30%の削減を目指すという目標を立てております。これは全て2019年度がベンチマークとしてます。

併せて、Scope3におきましては、リサイクルのサプライチェーン全体で、さまざまなパートナー様と協業に取り組み、リサイクルをどんどん活発化していく、CO₂排出量の最小化を目指すという活動を展開してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

気候変動対策推進のロードマップ

項目	内容	2030年度	2050年度
Scope1・2	省エネの更なる推進	エネルギー利用の効率化・ロス削減	
	低炭素/グリーン燃料への転換	重油・LPG⇒LNG・都市ガス	水素・アンモニア・メタネーションなど
	低炭素/グリーン電力への転換	再生エネ電力の導入開始・拡大	全使用電力の再エネへの転換
	炭素回収技術の導入	技術調査・検討	二酸化炭素回収・有効利用・貯留技術など
	カーボンオフセット	排出権取引等マーケット動向調査	植林・排出権取引など
		CO₂ 30% 削減	CN 実現
Scope3	リサイクルの推進・最大化	すべてのスクラップ(社内スクラップ、お客様からのスクラップ、一般消費者からのスクラップ)利用最大化	
	リサイクル合金・技術の開発・実用化	開発・実用化(NEDO*助成事業)	実用化・普及拡大
	低炭素/グリーン地金への転換	水力発電地金の利用拡大	グリーン(カーボンフリー)地金への転換
	UACJ独自のCO ₂ 排出削減認定手法(マスバランス方式)の開発・供給・定番化	仕組みの構築 → 活用・定番化	
	アルミ化推進	UACJ-SMARTの開発・拡販・定着化、新規領域の開拓・拡販 アルミニウムが活躍して環境負荷を低減、削減のルール化	
外部機関への参画・協働		イニシアチブへの参画、アルミ業界団体との協働	CO₂ 排出 最小化

© UACJ Corporation. All rights reserved. *NEDO 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

7

こちらは非常に細かくなっておりますが、2050年度へ向けてのロードマップとなります。大きくScope1・2とScope3に分けております。

Scope1・2におきましては、これまでの活動の延長線上となりますが、省エネ活動をどんどん積極的に展開していくということ、併せて、低炭素/グリーン燃料、あるいは低炭素/グリーン電力の採用を積極的に拡大してまいります。

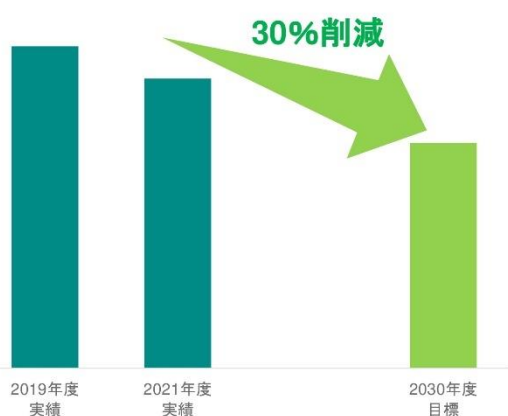
Scope3におきましては、リサイクル合金の技術の開発とともに、スクラップの積極的な活用、最大化を図ってまいります。併せて、弊社独自のCO₂削減認定手法の開発も開始しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

Scope 1・2削減に向けた取り組み

CO₂排出削減目標 (Scope1・2、2019年度比・原単位)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

*気候変動対策推進委員会内の「カーボンニュートラル対応WG」配下の組織として設置

新省エネ分科会*

- カーボンニュートラル挑戦宣言後、Scope1・2における目標達成のため
2022年7月「**新省エネ分科会**」を設置。
UACJグループ全体での更なる削減施策をスタート。

再生可能エネルギー(電力)の実績・計画

- 【実績】 **CO₂削減効果約1.4万トン/年**の
太陽光発電システムを設置済み(UATHラヨン製造所等)。
- 【計画】 **CO₂削減効果約10万トン/年**の
再生可能エネルギー(電力)導入を計画(2023年度より)。

8

続いて、Scope1・2の活動について具体的に説明してまいります。

こちら先ほど来よりご説明しましたとおり、2030年度30%削減に向けてということになっておりますが、2021年度においては、ベンチマークから10%の削減が完了しております。

右のところに詳細記載しておりますが、さらにこれを推進していくために、7月には「省エネ分科会」を設立しております。これによって、さらなるScope1・2での削減の策の積み上げを図っていくということになりますが、内容は後ほどご説明いたします。

併せて同時に、再生可能エネルギーにつきましても、太陽光発電の導入であったり、あるいは再生可能エネルギー由来の電力の導入であったり、こういったものを進めてまいります。太陽光発電につきましては後ほど具体的にご説明しますが、年間で1.4万トンの削減効果、それから再生可能電力につきましてはCO₂排出量に換算して年間10万トン相当の調達を図りたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

Scope1・2削減に向けた取り組み

CO₂排出量削減のための施策を検討、実行のための道筋を立てる

新省エネ分科会の経過

- 2022年11月までの議論で施策検討
- 2030年度Scope1, 2の削減目標を上回る削減施策を積み上げ
- 実効性を確認しながら、優先順位をつけて実行に移していく

CO₂排出削減の施策例

【継続実施の施策】

- 蒸気/圧縮空気漏れの削減
- 炉の断熱増強・放熱防止など

【一部実施、対象拡大中の施策】

- 自敷地内での太陽光発電導入(UATHで実施)
- 鑄造/加熱/焼鈍炉の低炭素燃料への転換
- 工場照明のLED化など

【検討中の施策】

- 熱利用設備の再エネ発電利用による電化
- 廃熱利用設備の導入(鑄造、加熱炉など)
- 空調設備・ボイラーの高効率化など

© UACJ Corporation. All rights reserved.

9

もう少し具体的に Scope1・2 の活動についてご紹介いたします。

右側のところに記載してございますが、CO₂ 排出削減の削減例を記載しております。これまでの活動延長線上にある蒸気であったり、空気の漏れの削減、あるいは炉の断熱、放熱防止等々、これまでずっとやってきている活動ではありますが、こういった細かい活動を積み上げていくということ。

さらに今後拡大をしてまいります、太陽光発電の導入、あるいは LNG を中心とした低炭素燃料、さらにはこの先に至っては、LNG に置き換わる低炭素燃料、こういったものも検討していきたいと考えております。

こういった数々の施策を通じて、一つ一つ実効性を確認しながら優先順位を付けて、一つずつ確実に展開していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

UATH*(ラヨン製造所) 太陽光発電システム 9月より稼働開始



- 関西エネルギーソリューションズ(タイランド)社とラヨン製造所の屋根に**太陽光発電パネルを設置**
(出力1.8万kW、約4万枚⇒日本の一般家庭約7,900戸分に相当)
- UATHIは、発電された電気を20年間全量消費。
- **CO₂削減効果約1.4万トン/年。**

© UACJ Corporation. All rights reserved. *UACJ (Thailand) Co., Ltd.

10

これは、UACJ タイランド、ラヨン製造所の外観写真を示しております。敷地は50万平米の広い土地になります。この工場は鋳造から仕上げまでの一貫工程となっております。

写真の中では紫色に見えますが、これが鋳造から仕上げ工程の建屋に全てパネルを設置した外観イメージ写真となります。パネルの枚数としては4万枚にもなります。これは、日本の一般家庭でいいますと7,900戸相当ということで、大変大規模な発電となっております。CO₂に換算しましても、年間で1.4万トン削減できるということになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

リサイクルアルミ材100%使用缶 発売(9月)



ザ・プレミアム・モルツ CO₂削減缶



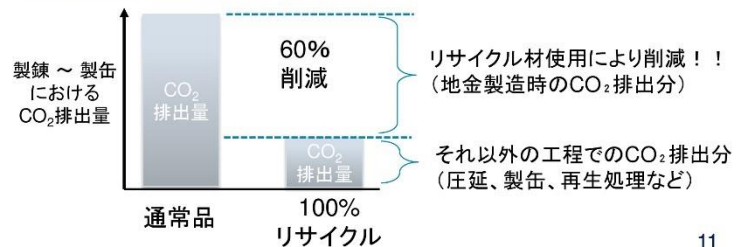
ザ・プレミアム・モルツ(香る)エール CO₂削減缶

© UACJ Corporation. All rights reserved.



- ✓ 世界初の100%リサイクル缶を、サントリー株式会社・東洋製罐グループホールディングス株式会社と共同で実現
- ✓ 新地金を使用せず、缶胴、フタ、タブ材のすべてをUBC(使用済飲料缶)やアルミ缶材の製造工程で生じた端材を使用
- ✓ 環境負荷低減を見据え、選別や分離、アルミ板製造工程などに特別な管理を行うことにより、100%リサイクルアルミ缶用板材を製造

【製錬から製缶までのCO₂排出削減のイメージ】



11

次に、リサイクル推進の1例として、リサイクルアルミ缶材100%使用缶についてご紹介いたします。

今から皆さんのお手元に、100%リサイクル缶の現物を配布させていただきます。

缶を手にとってご覧いただいたとおり、外観はほかと比べて明らかに変わるといえることはありませんが、こちらは、サントリー株式会社様、東洋製罐グループホールディングス株式会社様と共同で実現した世界初の100%リサイクルアルミ缶、100%リサイクル材を使用した缶となります。9月に発売しております。

この100%リサイクル材使用缶というのは、新地金を使用しないということです。缶のボディとフタ、タブはそれぞれ違った合金で作られておりますが、それら全てをUBS(使用済み飲料缶)であったり、製造工程で発生する端材を確実に回収したりすることで、この100%の缶に戻しているというものでございます。

選別、分離、アルミニウムを作る工程など、特別な管理を実施し、今回、100%リサイクルの缶材が実現しました。

スライドの右下のとおり、この100%リサイクル材の使用により、従来に比較して、60%ものCO₂が削減できるということに繋がり、今回初めて成功しました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ASEAN域内でのアルミ缶クローズドループ・リサイクル促進

Can to Can Journey

政府、業界関係者をUATHに招き、アルミ缶のリサイクル性、Can to Can のクローズドループ(アルミ缶プロセスにてアルミニウムを再利用する循環)を理解していただく活動



クローズドループ・リサイクル促進に関する覚書の締結

- 2021年12月 タイ
 - 2022年 2月 ベトナム
- アルミ缶の使用が進むASEAN域内において、現地の政府・企業とリサイクルスキームの構築へ今後も注力



タイにおける覚書調印式
(右から2番目:UACJ執行役員 板本崇本 副本部長 橋本圭造)



ベトナムにおける覚書調印式
(右から2番目:UATH 取締役社長 稲垣公樹)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

12

次に、海外におけるリサイクル促進の活動になります。

Can to Can Journey、この活動は、タイにおいて活動を展開しているものになります。タイ政府や、タイの業界の関係者を中心の一つのグループをつくり、リサイクルを積極的に推進していこうという活動になります。

タイの政府から始まって、缶のサプライヤー、そして、われわれと。こういったグループが一つになって、リサイクルを促進していこうということを進めております。

そのほか、ASEAN 地域においては、ベトナムにおいても、ベトナムの政府、あるいは企業とリサイクルのスキームをどんどん構築していこうということで活動を展開してございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

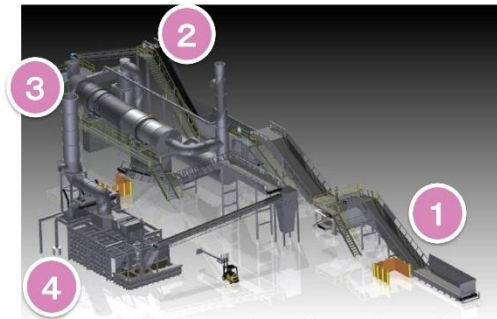


27

CO₂排出最小化に向けたアルミ缶リサイクルの拡大

サーキュラーエコノミーの心臓を目指して、アルミ缶リサイクル設備導入を促進

➤ TAA*(ローガン工場):稼働中



TAA (Logan)で稼働中の設備イメージ図・写真



- UATH(ラヨン製造所):2024年度稼働予定
- UACJ(福井製造所):山一金属(株)と協業推進中

© UACJ Corporation. All rights reserved. *Tri-Arrows Aluminum Inc.

13

先ほど来より缶のリサイクルの話が出てまいりましたので、併せて、ここではリサイクル設備について簡単にご紹介させていただきます。

これは、UACJの北米のTAA、ローガン工場のリサイクル設備の写真を示しております。UBCを1の部分から塊で投入、破碎して、さらに2番のところで細かくして、3番のところで、塗装を飛ばした上で、4番のところで元のアルミニウムの素材に戻し、最終的にはまたアルミニウム缶に戻る、このような工程になってございます。

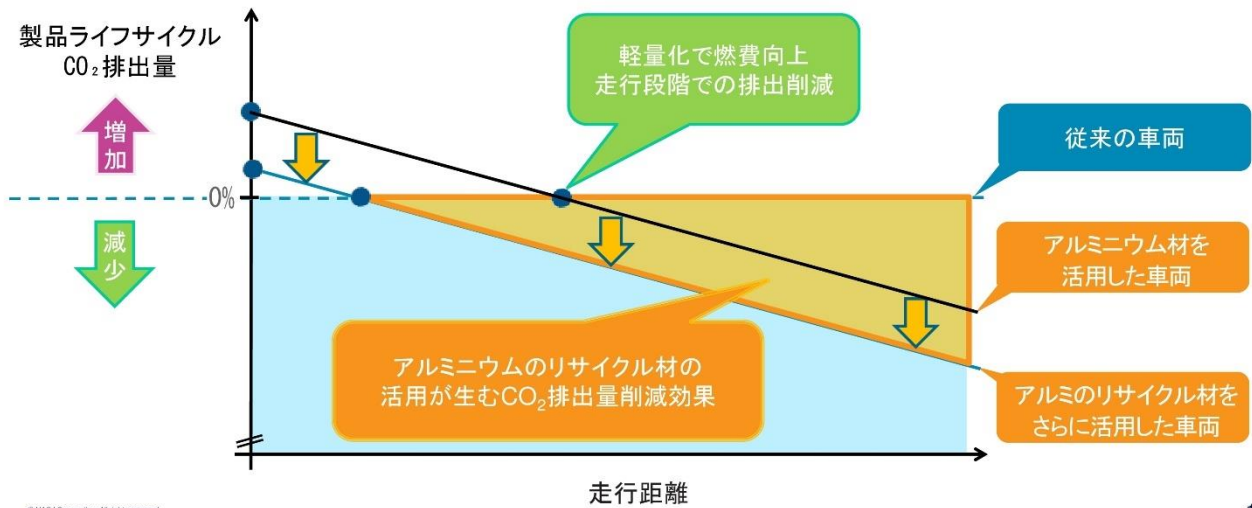
このようなアルミのリサイクルシステムは、アメリカがスタートですが、来年以降、同じではありませんが、リサイクル設備をタイのラヨン製造所でも導入、稼働開始するという計画になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

自動車のアルミニウム化によって期待されるCO₂削減貢献

軽量化による燃費向上で、ライフサイクル全体でのCO₂削減に貢献



© UACJ Corporation. All rights reserved.

14

次に、自動車の例を基に、アルミ化によって期待されるCO₂の削減貢献についてご紹介いたします。

このグラフは、横軸に走行距離、縦軸に製品のライフサイクルのCO₂排出量を示したイメージ図になります。ゼロのところを見ていただきますと、この横に書いてありますとおり、従来の車両をゼロの横軸に取って、それから右肩下がりになっているものが、実際にアルミニウムが採用された場合のCO₂の排出というイメージを示しております。

これで見えていただきますと、右のほうにいくに従って、走行距離が多くなればなるに従って、CO₂の排出量が減ってくる。これはアルミ化による軽量化効果になります。車両製造にかかわるCO₂新地金を使用したアルミニウム材を活用した場合を上のプロットとすると、リサイクル材を活用した場合には下のプロットのように下がります。すなわちリサイクル材をどんどん増やしていけば、この切片のところはさらに下がっていくということで、さらにCO₂の排出が減ってくるという形になります。

全体的にはご覧いただいたとおり、この三角の黄色で塗った部分が、全体的なCO₂の排出量の削減として効果が得られるということになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

自動車でのリサイクル材の開発事例

低CO₂アルミニウム材が軽金属学会「第57回小山田記念賞」受賞

- 自動車メーカー様と共同開発したリサイクルアルミ材が、(一社)軽金属学会【第57回小山田記念賞】を受賞
- アルミニウム合金端材を約50%使用することで新地金量を削減し、従来アルミニウム材比較で素材製造時のCO₂排出量を約50%削減することを実現
- 自動車のライフサイクルにおけるCO₂排出量削減に大きな効果があり、今後のカーボンニュートラルに貢献するものと期待され、本技術が受賞



リサイクルアルミ材は、フードインナへ採用

© UACJ Corporation. All rights reserved. (ご参考)一般社団法人 軽金属学会「第57回小山田記念賞」
https://www.jilm.or.jp/uploads_content/2022/11/2022akihyosyo2.pdf

15

では、実際にこういったものがどのような活用になっているかというものの紹介します。

これは、われわれのお客様である自動車メーカー様と共同で開発したリサイクルアルミ材になります。右の写真の赤い枠で囲ったところ、自動車のボンネットに相当するところですが、ここに実際に、低CO₂のアルミニウム材が活用されております。約50%のアルミニウムリサイクル材を使うことで、約50%のCO₂排出削減が図られたというものであります。

ちなみに、本件は、軽金属学会の「小山田記念賞」をこの10月にいただいております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

リサイクル新技術の開発推進

NEDO*助成事業で革新的リサイクル新技術を開発し、リサイクル率の大幅な向上を目指す



*NEDO 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
© UACJ Corporation. All rights reserved. 出典 NEDO 先端研究プログラム(2019~2020) p43. アルミニウム素材の高度資源循環システム構築 より

16

次に、リサイクルの新技術についての紹介となります。

これは、われわれは通称アップグレードリサイクルと呼んでおりますが、スクラップから始まって、特別な選別工程、それから、ある特殊な工程を経て、もう1回アルミの展伸材に戻すという新たな技術開発であります。

展伸材に戻されたあとは、やはりお客様のもとで、製品となり、もう1回スクラップになってまた戻ってまいります。

こちらにつきましては、NEDO、国立研究開発法人の助成事業として、現在開発が進行中でございます。2030年度以降の実用化を目指していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

TCFDシナリオ分析の実施

◆ 環境省の支援事業を受けて、**シナリオ分析を実施**(2021年10月～2022年1月)。

◆ 分析対象 : アルミ圧延品事業の内、
板事業の国内3製造所(名古屋・福井・
深谷)とUATH

◆ 分析内容 : 原料調達から廃棄、
リサイクルに至るサプライチェーン上の
リスクと機会

◆ IEAやIPCC等の将来予測値を参考とし、
1.5°Cおよび4°C(2.6～4°C)の二つのシ
ナリオを使用して分析。

シナリオ分析対象



© UACJ Corporation. All rights reserved.

17

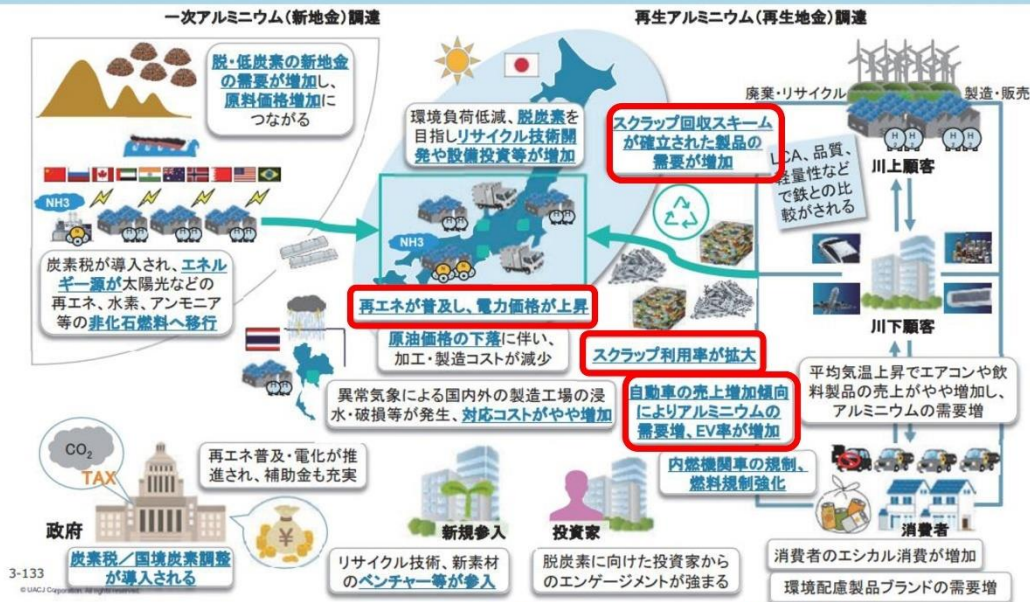
次に、TCFDのシナリオ、TCFDへの賛同についてご紹介いたします。

当社は、2021年9月にTCFDへの賛同を表明いたしました。翌10月からは、環境省の支援も受けながら、実際のシナリオ分析を展開しております。分析の対象や、内容はそこに記載してあるとおりですが、このシナリオ分析の中では、1.5°Cあるいは4°C気温が上昇するというシナリオの基に、リスクあるいは機会を想定し、その対策を進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

TCFDシナリオ分析 1.5°Cシナリオの将来社会イメージ*



*出典：環境省「TCFDを活用した経営戦略立案のススメ」(2021年度版) http://www.env.go.jp/earth/datsutansokeiei_mat01_20220418.pdf
 4°Cシナリオの将来社会イメージ図等も掲載。

ここでは、TCFDのシナリオ分析に基づいた1.5°Cのイメージを書いております。将来的なイメージ図ということで記載しております。

この中には、いくつかのリスクであったり、機会が存在するわけですが、例えば、赤枠で囲ってありますが、再エネが普及して、電力単価が上昇するといったような事象、あるいは右端に書いてありますとおり、スクラップの回収スキームがどんどん高度化して、アルミのリサイクルがどんどん発展していくということ、あるいは自動車等で、軽量化に伴ってアルミニウムの採用がどんどん増えていくということ。いくつかのリスクであったり、機会が想定されます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

TCFDシナリオ分析に沿った施策の実施

項目	リスク対応	機会の取り込み
炭素価格、各国の炭素排出目標／政策	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長期的なCO₂排出量/エネルギー削減目標設定 ⇒ 2050年CNへの挑戦宣言、2030年度CO₂排出削減目標を再設定(上方修正) ✓ インターナショナルカーボンプライシングの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長期的なCO₂排出量削減目標の実施 ✓ 森林等のCO₂吸収とクレジット制度の活用 ✓ 削減貢献量の評価方法構築 ✓ 脱炭素に向けた、官民連携・国際協力による省エネ技術の移転
エネルギーミックスの変化 省エネルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 燃料転換・電力会社切替等省エネ改善 ✓ 再エネ導入の促進 ⇒ CO₂削減量10万ト/年規模で、2023年度からの再エネ導入を推進中 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 太陽光等の自家発電の利用促進と売電 ⇒ UATHIに太陽光発電システムを設置(2022年9月より稼働) ✓ CCS・CCUS等の脱炭素技術の活用
各国のリサイクル規制／政策	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 製品におけるリサイクル率向上の推進 ⇒ 世界初の100%リサイクル缶を製造 ✓ スクラップ回収スキーム上(川上・川下)との確立 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小売業者・自治体とのスクラップ回収スキームの連携と確立 ⇒ Can to Can JourneyのASEAN域内における展開
重要商品/製品価格・需要の増減	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (原材料価格上昇に見合った製品価格の設定) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (リサイクル回収効率化等の対応により製品価格上昇を抑制し、製品競争力強化)
顧客の行動変化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 脱炭素アルミニウム製品・サービス開発(認証化) ⇒ UACJ独自のCO₂排出削減の認定手法(マスバランス方式)運用検討 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 製品のアルミニウム活用推進 ✓ 環境配慮の認証取得推進、独自ブランド確立 ⇒ ASI認証取得、「UACJ SMART」拡販 ✓ 競合素材会社との協業
平均気温の上昇		
異常気象の激甚化(サイクロン、洪水)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 防災設備の導入 ✓ データ活用によるリスクモデル高度化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 製品のアルミニウム活用推進: 防災技術・製品の拡充 ⇒ 防災用止水板・アルミボトル缶備蓄水の販売開始 ✓ 防災に向けた官民連携コンソーシアム等組成

© UACJ Corporation. All rights reserved.

19

こういったシナリオを基に、リスクと機会の算出、それに伴う活動を展開しております。

例えばリスク対応といたしましては、例えば脱炭素アルミニウム製品のサービスの認定、こういったものに対しては、われわれ独自のCO₂の排出削減の認定手法の開発を進めております。

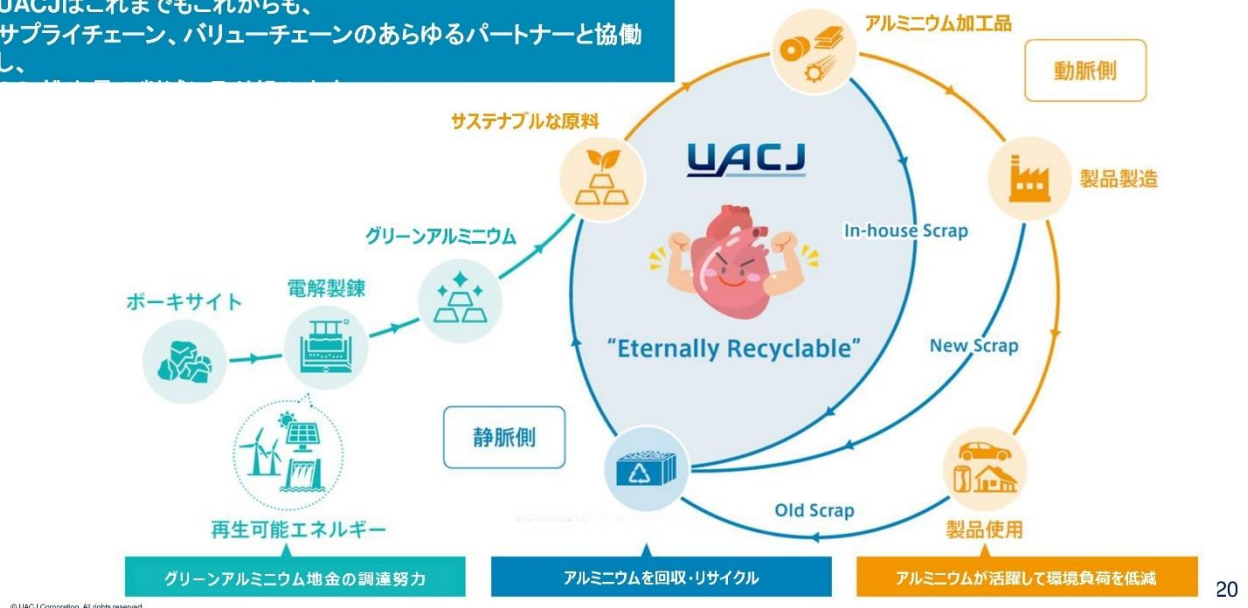
機会におきましては、右側の列になりますが、先ほど来でも説明がありましたとおり、例えば気候変動に伴う異常気象による対応として、防災の設備にアルミニウムの素材をどんどん適用していきということで、新たな商品の開発にも結び付けていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

循環型社会の構築を目指して

UACJはこれまでもこれからも、サプライチェーン、バリューチェーンのあらゆるパートナーと協働し、



20

最後になりますが、われわれは、循環社会の構築を目指して、これまでもこれからも、サプライチェーン、バリューチェーンのあらゆるパートナー様と協働しながら、CO₂の排出量の削減に努めてまいりたいと考えております。

「100年後の軽やかな社会」の実現を目指して頑張っております。

私からの説明は以上でございます。ありがとうございました。

上田：田中からのご説明は以上となります。田中さん、ありがとうございました。

続きまして、「アルミニウムの持続可能性と UACJ のケイパビリティ」についてご説明申し上げます。こちらは、アルミニウム、そしてアルミニウムのリサイクルについて知っていただきたい思いから、元 R&D センターの研究員で、現サステナビリティ推進部主査、野瀬健二からご説明いたします。

野瀬さん、よろしくお願いいたします。

サポート

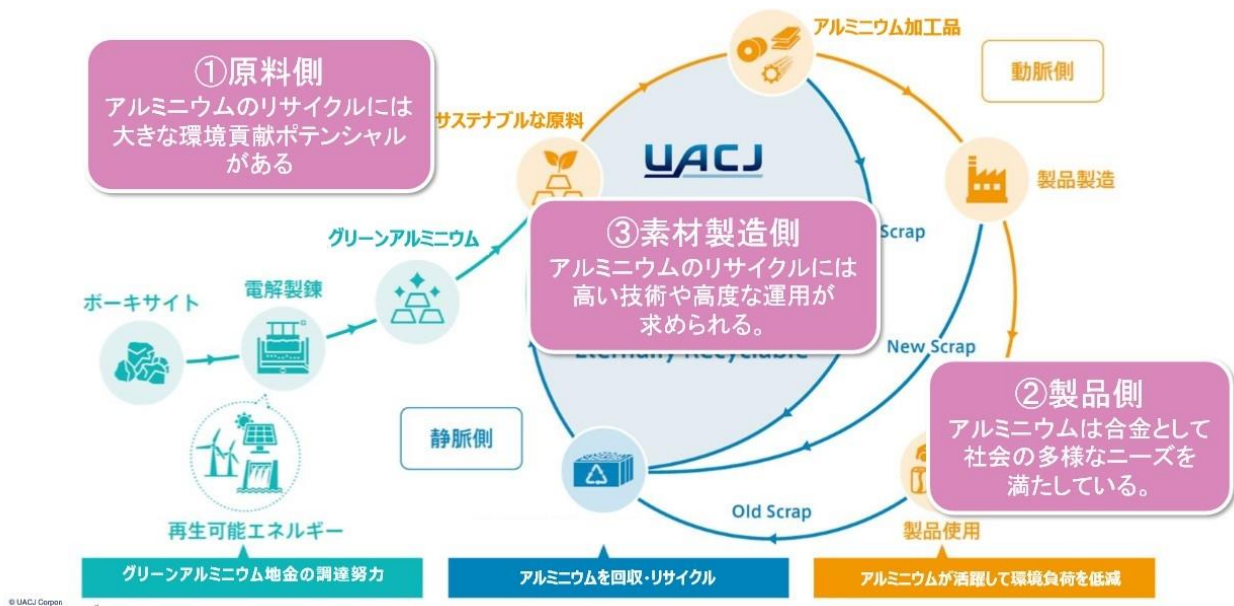
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

アルミニウムの持続可能性と UACJのケイパビリティ

経営戦略本部 サステナビリティ推進部
 主査 野瀬 健二



お伝えしたい3点の内容 「アルミニウム合金」をキーワードに



野瀬：野瀬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。こちらのパートでは、技術的な視点を基に、アルミニウムの持続可能性と UACJ のケイパビリティについてご説明させていただきます。

先ほどより示しております循環の心臓の絵です。この絵を用いて、このパートでお伝えしたい3点の内容を最初にご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

まず上流側、原料で見たときのアルミニウムの特性です。アルミニウムは、ボーキサイトを採掘して、金属を得るまでのエネルギーが比較的高いということが知られております。そのために、リサイクルに環境貢献の大きなポテンシャルがございます。

それから、もう1点、製品側から見たときのアルミニウムの特徴です。アルミニウムの素材は、比較的単純な形状で需要家の皆様にお届けします。その分、アルミニウム素材に対して求められる特性は、需要家ごとに非常にシャープなニーズがございます。そのために、アルミニウムはアルミニウム合金として社会で使用されております。

これら上流側、下流側から求められる要件は互いに矛盾する点がございます。すなわち、製品サイドで見たときには、多様なアルミニウムが求められるのに対して、それらを一度使用し終わったあとの原料として見た場合には、原料として非常に使いにくいという特性がございます。この2点のギャップを埋めるところに競争領域があり、当社がこれまで培っていたさまざまな運用能力や技術が生きてくるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



アルミニウムの特性



© UACJ Corporation. All rights reserved.

それでは、アルミニウムの特性を振り返るところからご説明を始めさせていただきます。

アルミニウムには、軽い、強度が高い、耐食性が高い、成形性に優れるといったさまざまな特徴がございます。これらの特徴を活かして、アルミニウムは多様な分野において使用されております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

アルミニウムの用途 - アルミニウム合金として素材に求められる多様な特性に応える



自動車分野
軽量性で
性能・燃費向上、インフラ
長寿命化に寄与

ボディパネル材

構造部材

熱交換器材

バッテリーモジュール材



飲料缶分野
リサイクル原材料の活用で、
社会の環境負荷を低減



医薬品・食品分野
無害・密閉性などの
特性を活かして、
安全・安心な暮らしに貢献



IT分野
軽量かつ意匠に優れるデザ
インと使用性能を実現



航空・宇宙分野
最先端技術を活用して、
安全性と燃費向上の両立する



船舶分野
高速化・軽量化・耐食性向上に貢献する

© UACJ Corporation. All rights reserved.



建築分野
景観性と作業性の向上で
活用が広がる

そちらがこちらの図となります。

例えば、飲料缶の分野一つを取ってみましても、アルミニウムのガスや光を通さないという性質、成形性が高いといった性質、それから耐食性が高いといった性質、こういったものが活かされることで飲料容器として選択されております。

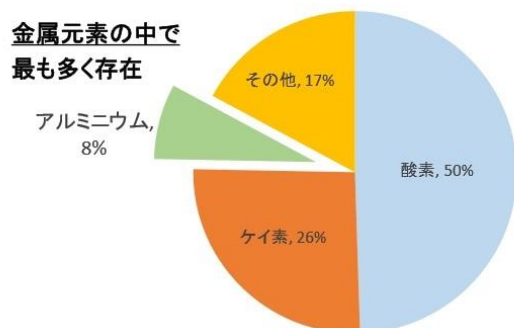
これらのさまざまな需要分野どれを取っても、それぞれ異なる需要家のニーズがあり、アルミニウムは異なる合金として提供されているという側面がございます。このために、リサイクル原料を用いる上ではさまざまな「技」と「術」が必要となるという要件がございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

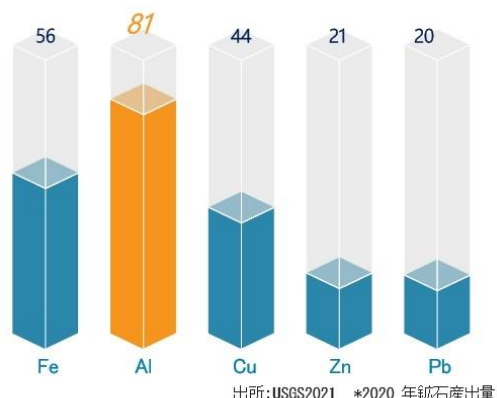
資源としてのアルミニウムの持続性

地殻に存在する元素の割合



ベースメタルの持続性

■ 埋蔵量 : 現在の需要量に対する割合(年)



環境対応・資源循環を確立させるまでに十分な時間がある

© UACJ Corporation. All rights reserved.

では、続きまして、金属資源としてのアルミニウムを振り返るところから、持続可能性についてご説明させていただきます。

左の図には、地殻中に存在する元素の割合を示しております。アルミニウムは、金属元素の中で最も高い割合で存在します。極端に言えば、その辺りの地面を掘ったときに、約8%はアルミニウムの元素が含まれるということが言えます。

それから、金属資源として見たときには、右の図にありますように、埋蔵量を毎年の需要量で割ったときに、約80年以上の可採年数があるということが現時点でも知られております。

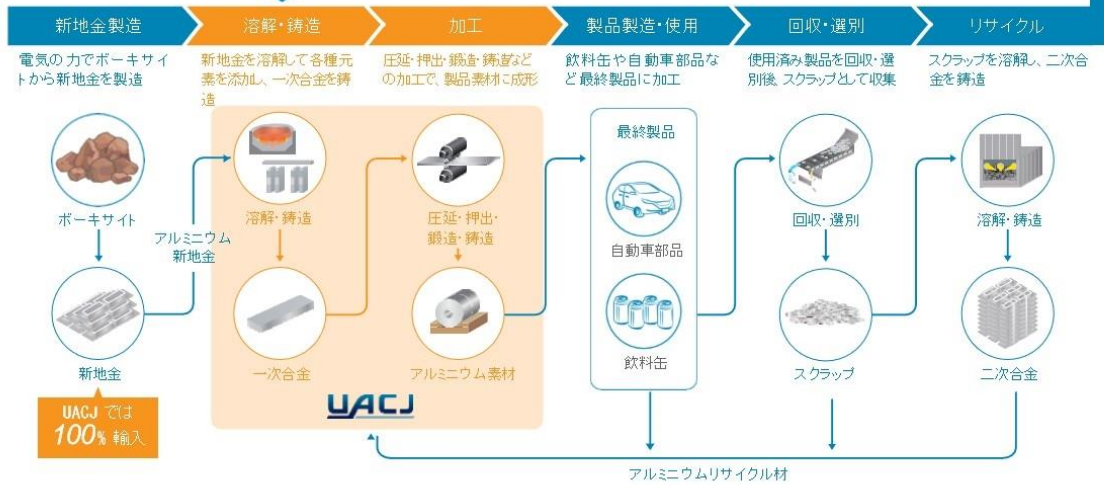
こうした金属資源の資源循環を確立し、持続可能性を維持するためには、技術を開発したり、社会の仕組みを構築するために、比較的長い時間を要するということが予想されます。その意味で、アルミニウムは、将来の持続可能な社会に不時着できる十分な時間的な余裕がある金属と言えるかもしれません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

アルミニウムのライフサイクル

新地金は100%輸入される。「循環の輪」の中で繰り返し利用される



© UACJ Corporation. All rights reserved.

続きまして、アルミニウムが社会でどのように使われているかを簡単にご説明させていただきます。こちらが、アルミニウムのライフサイクルを示した図です。

アルミニウムは、金属の元素として、社会の「循環の輪」の中で繰り返し利用されるという特徴がございます。国内においては、アルミニウムの金属というものは輸入された状態からさまざまな加工が始まります。それらが最終製品となり、使用し終わったあとには回収され、また原料として利用される、そういった特徴がございます。

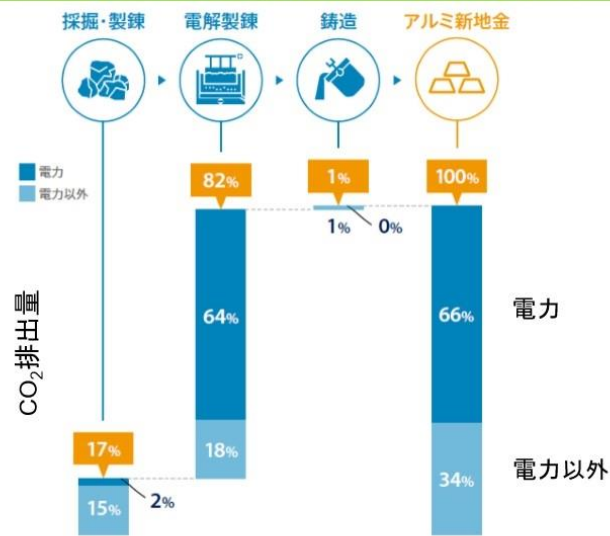
ここまでご説明いたしますと、アルミニウムの資源循環や持続可能性には何の心配も要らないように思われるかもしれませんが、しかしながら、エネルギーの観点で見たときには、越えなくてはいけない大きな課題があるということが言えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

エネルギーからみたアルミニウムの持続性

新地金の製造までのCO₂排出の2/3は電力由来



© UACJ Corporation. All rights reserved.

出所：International Aluminum Institute

そちらを示したのがこちらの図となります。ここでは、ボーキサイトの採掘から始まって、アルミニウムの金属を得るまでの各工程におけるCO₂の排出量を工程ごとに分解して示しております。

アルミニウムの元素は、酸素と強く結びつく性質があるために、それを引き離すために大きな電力を要するということが知られております。こちらのグラフに示された濃い青色の電力が、そのCO₂排出量の大きな部分を負っております。この事実は、二つのことを予想させます。

まず1点目、将来についてです。IEAが予想しておりますように、将来、世界の電力がグリーン化に向かって進むに従い、アルミニウムの新地金の環境負荷もそれに伴い下がっていくということを予想させます。

それから、もう1点は、現在についてです。区別ができない、同じアルミニウムの新地金を見た場合にも、その新地金がどの国のどの製錬所で作られ、その製錬所がこういったエネルギー源を使った電気を使っているかによって、環境負荷は大きく異なるということが推測されます。

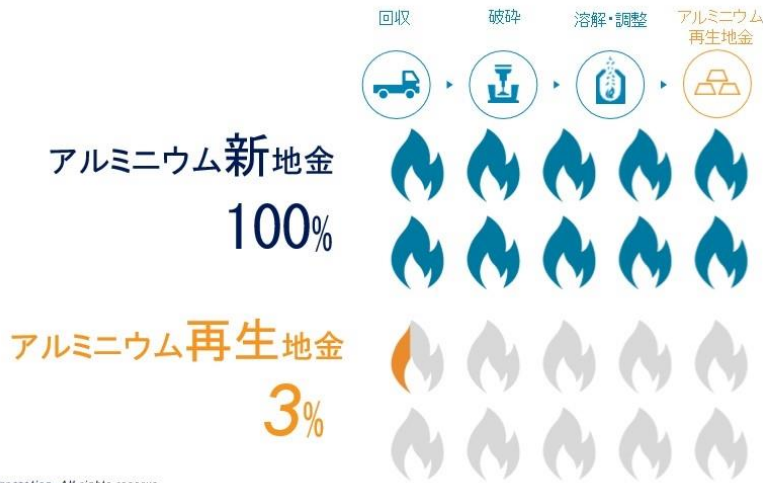
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

エネルギーからみたアルミニウムの持続性

鉱石から取り出されたアルミニウム(金属)はわずかなエネルギーで再溶解できる

アルミニウム再生地金の製造工程とGHG排出量



出所: 日本アルミニウム協会

© 2023 Alcoa. All rights reserved.

では、こうした新地金の環境負荷が高いということと、リサイクルがどういった効果があるかについてご説明させていただきます。アルミニウムのリサイクルの意義でございます。

こちらの図には、簡単にアルミニウムの新地金を得る場合のエネルギーと、アルミニウムの再生原料を溶解して、もう一度使う場合のエネルギーを比較しております。

アルミニウムの新地金を得るのに対し、再生原料を使う場合には、およそ3%のごくわずかなエネルギーで、原料として再利用できるということが言われております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

リサイクル原料の利用による環境負荷低減

アルミニウムの循環利用率と平均環境負荷※

※(アルミニウム新地金の環境負荷)×(1-リサイクル率)+(アルミニウム再生地金の環境負荷)×(リサイクル率)



出所:日本アルミニウム協会「アルミニウム VISION 2050」より UACJ 作成

© UACJ Corporation. All rights reserved.

では、これを製品から見た場合に、リサイクル原料を使うことによってこういった効果があるかについて簡単に示したいと思います。

こちらのグラフには、横軸に、原料として用いるリサイクルのアルミニウムの割合を示しております。縦軸には、CO₂の排出量を示しております。

新地金が負っているCO₂の排出量は、IAI、国際アルミニウム連盟等の試算によりますと、1キログラムのアルミニウムあたり10キログラム程度のCO₂排出をしているということが報告されております。それに対しまして、再生原料は、回収や選別も含めても1キログラム程度以下のCO₂しか排出しておりません。

このため、原料として、より多くの再生原料、再生アルミニウムを使うことで、環境負荷はそれに従って下がっていくということが推測されます。

日本の国内全体のアルミニウム産業を見たときに、再生資源の割合は現時点でも48%に達しております。また、飲料缶のような分野では、約3分の2に再生原料が使われております。このことは、CO₂排出の環境負荷という意味では、それぞれ半分、もしくは3分の1程度まで環境負荷がすでに低減されているということを推測させます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

アルミニウムのリサイクルの効果

試算事例

- ・アルミ缶リサイクルの省エネ効果
- ・アルミニウム製品1個あたりのCO₂排出量



© UACJ Corporation. All rights reserved.

では、こういった環境負荷をリサイクルによって低減するということを、二つの計算事例により示したいと思います。

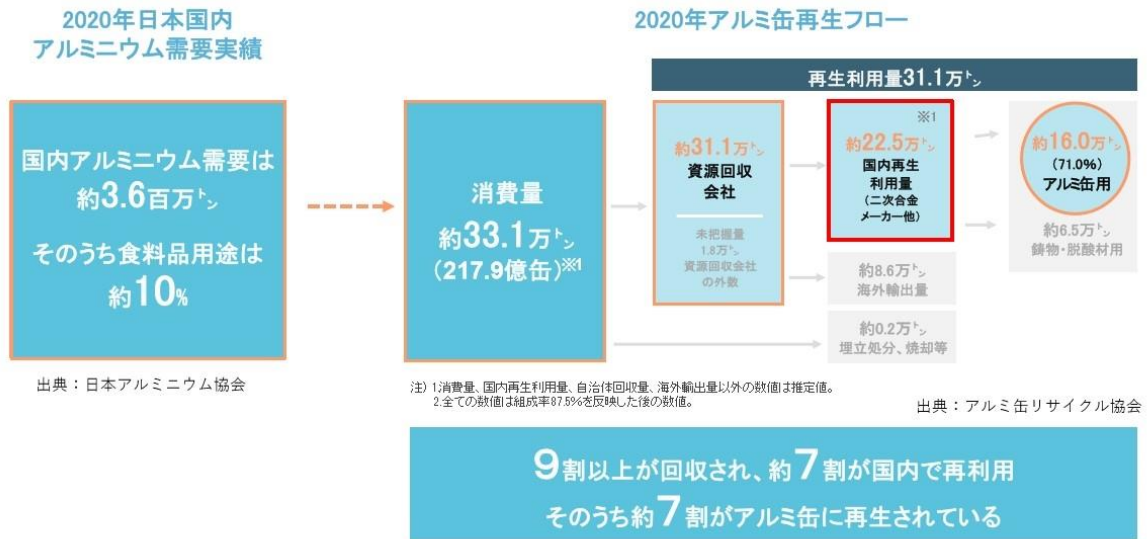
マクロな事例として、アルミニウムの缶が国内でリサイクルされているという、このことの省エネルギー効果を示します。2点目はミクロな事例で、アルミニウム製品1個を見た場合の、その製品が負っているCO₂の排出量についてです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



アルミ缶のマテリアルフロー



© UACJ Corporation. All rights reserved.

アルミニウムの缶のマテリアルフローを示しております。

赤枠で囲っていますように、国内においては約22万トンの使用済み飲料缶に由来する原料が再び使われております。この22万トンという量が、新地金で作る場合と、リサイクル原料を用いる場合とでは、大きなエネルギーの差となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

アルミ缶の回収が環境に与える効果

社会全体での省エネ、CO₂排出削減に大きく貢献



約300億MJの
エネルギー節約



全国世帯数(5,178万世帯)の
概ね15日分の使用電力量

参照: アルミ缶リサイクル協会「リサイクルについて」
※1 2020年に国内でリサイクルされたアルミ缶の重量
※2 日本アルミニウム協会「展伸材用スクラップ溶解のインベントリ調査報告書」

© UACJ Corporation. All rights reserved.

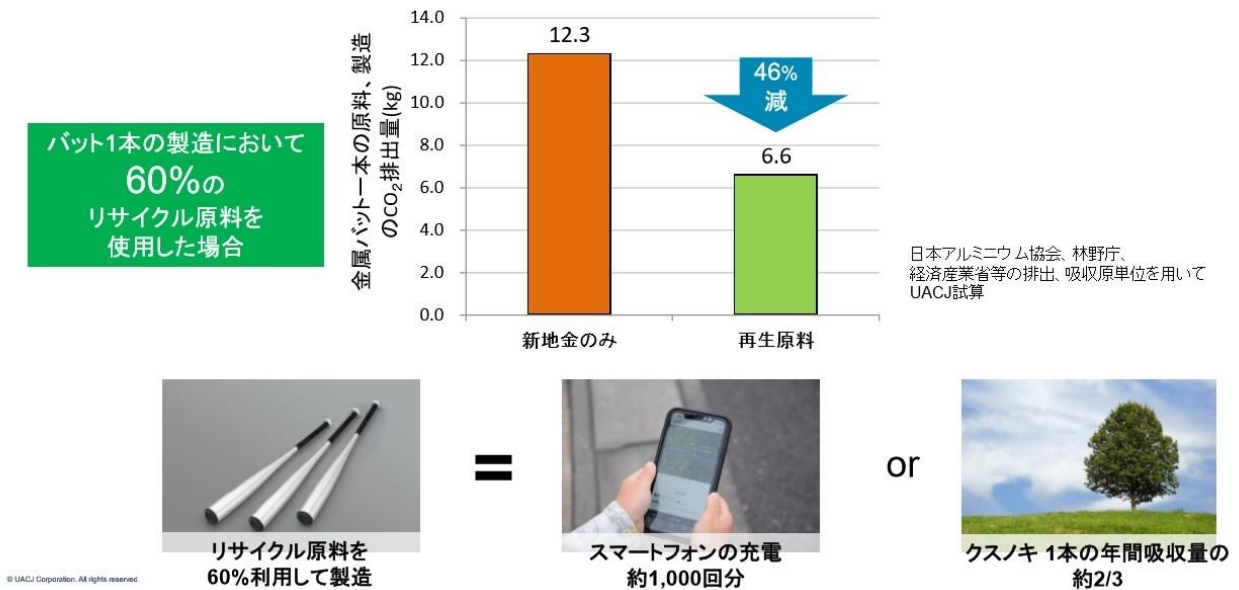
その値は、およそ 300 億 MJ という膨大なエネルギーとなります。これは、日本の全国の世帯数である約 5,200 万世帯がおおむね 15 日分使用する総電力量にも値する膨大なエネルギーとなります。

先ほど申し上げたように、日本においては商業的な製錬は行われておりません。しかしながら、国内において、さまざまなステークホルダーの努力により、アルミニウムの缶が回収され、原料として再利用されているということは、世界全体で見たときに、大幅なエネルギーの軽減につながっていると言えるかと思えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

試算例(アルミニウム製品1個): アルミニウム金属バットのリサイクル



続きましては、身近な例で、一つのアルミニウム製品を取ったときの環境負荷の低減効果についてご説明したいと思います。

弊社のグループ会社の UACJ 金属加工でも製造しております、アルミニウムの金属バットを用いた試算となります。

アルミニウムの金属バット 1 本には、およそ 850 グラムのアルミニウムが使われております。これを、ボーサイトの採掘から始まって、アルミニウムの金属バットに加工するまでの全ての CO₂ 排出量を試算いたしますと、1 本あたりおよそ 12.3 キログラムと試算されます。

これに対しまして、使用済みの金属バットを回収し、その 60%を原料として用いた場合には、その環境負荷は約半減するということが試算されています。この削減された 5.7 キログラムの CO₂ は、スマートフォンのような低消費電力デバイスの消費電力に換算いたしますと、約 1,000 回もの充電ができるような量となります。また、森林の CO₂ 吸収量に比較いたしますと、大きさにもよりますが、クスノキ 1 本が年間に吸収する CO₂ 量のおよそ 3 分の 2 にも達する量です。

私は、ここでアルミニウムの金属バットという製品を取り上げましたが、これはあらゆるアルミニウム製品について、同じような試算をすることができます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

素材ユーザー様へのメッセージ

近年：サプライチェーン排出量の削減が求められる
(Scope3: 上流を開示する企業も増加)



ユーザー企業様の
工場内の排出削減 (Scope1), 節電・電力のグリーン化 (Scope2) 等
と比較したときに、

**アルミニウム素材には、
大きな削減ポテンシャルがあります**

© UACJ Corporation. All rights reserved.

近年、サプライチェーン全体での排出量の削減が求められております。特に製造業におきましては、Scope3 となる上流側の開示が求められており、そうしたことに協力している企業様も多いことと存じ上げております。弊社におきましても、Scope3 のカテゴリー1 から 4 の開示を行っております。

アルミニウム素材のユーザー企業様においては、工場内の排出を削減や、節電、電力のグリーン化等にさまざまな投資が行われているものと推察しております。そういった活動に比べまして、先ほど示しましたアルミニウム素材が、サプライチェーンでの排出量を削減するポテンシャルは非常に大きなものがございます。しかし、その一方で、どんな製品においても、アルミニウムの再生原料が使えるわけではございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

アルミニウム展伸材の用途と合金: UACJでは約2,000種類の合金、1万以上の製造法で対応

自動車分野
2000(Cu, Mg), 3000,(Mn, Mg),
4000(Si), 5000(Mg), 6000(Mg, Si)

飲料缶分野
3000(Mn, Mg), 5000(Mg)

医薬品・食品分野
1000, 3000(Mn, Mg)

IT分野
5000(Mg),6000(Si)

建築分野
6000 (Mg, Si)

船舶分野
3000(Mn,Mg)、5000(Mg)

航空・宇宙分野
1000, 2000 (Cu, Mg),
5000(Mg),7000(Zn, Cu, Mg)

ボディパネル材
構造部材
熱交換器材
バッテリーモジュール材

© UACJ Corporation. All rights reserved.

その制限と、そのために必要なものについて、アルミニウム合金というキーワードでご説明させていただきます。

最初に示しました、さまざまなアルミニウムの製品分野をもう一度示しております。それぞれの製品分野の下に4桁からなる展伸材と呼ばれる合金番号と、添加されている金属元素を示しました。

UACJグループでは、約2,000種類の合金を登録し、それを1万種類以上のレシピで製造し、お客様が求められる特性を持ったアルミニウム素材として提供しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

アルミニウム合金の例（自動車を例に）

異なる合金への再生利用には制限がある。鋳物へのフローは一方通行



自動車一つを取りましても、使われるアルミニウム合金は多様であります。こちらの表には、代表的な自動車に搭載されているアルミニウム素材を示しております。

電池用のアルミニウム箔、電池のケース、ラジエータやエアコンなどには必須となる熱交換器用の板や管、そして、近年拡大するボディパネル等、それぞれにおいて求められる特性が異なるために、異なる合金としてアルミニウム素材が提供されております。また、それぞれの分野において、一つの合金で需要が満たされるわけではなく、お客様のニーズに合わせた合金が必要となります。

弊社が得意としております展伸材と呼ばれるこのような合金は、右の模式図に示したように、添加元素が比較的少ないという特徴がございます。そして、わずかな添加元素の量や加工プロセスの違いによって、特性が鋭敏に変化するという特徴がございます。弊社におきましては、この特性を逆に利用し、お客様のニーズにミートした材料を提供しております。

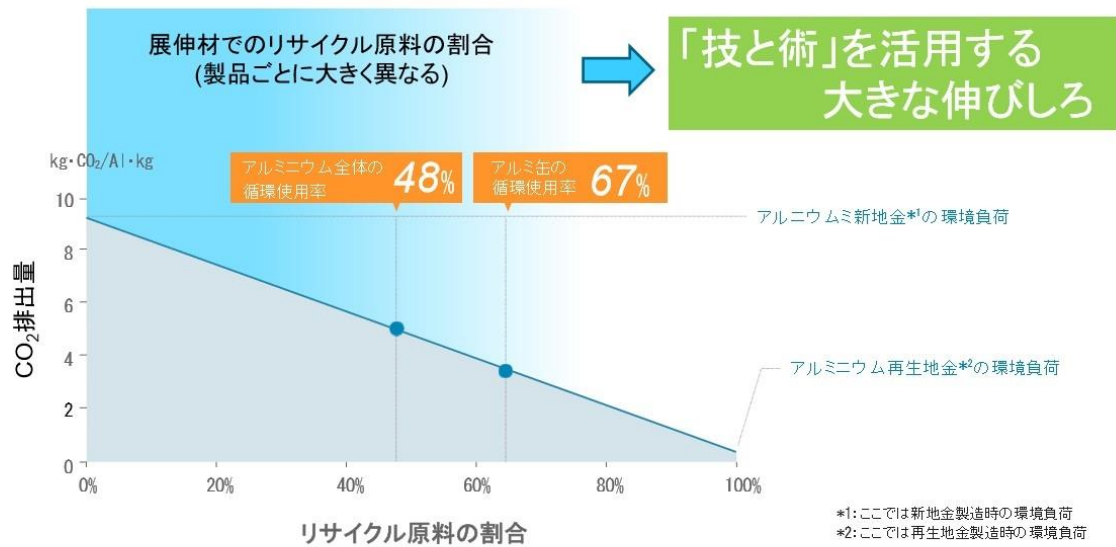
その一方で、アルミニウムは、エンジンブロックに代表される鋳物においてもたくさん利用されております。鋳物の合金は、展伸材の合金とはまったく異なる合金体系を有しております。添加元素の量でいうと、展伸材よりも大幅に多い添加元素を含んでおります。この添加元素の量の違いがリサイクル性にも大きな影響を与えております。

すなわち、展伸材から鋳物材にスクラップ等を再利用することは比較的容易であるのに対し、その反対の流れ、鋳物材のスクラップ等を展伸材に利用するのは非常に難しいということが知られております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

展伸材のリサイクル原料の利用の将来



では、実際にどの程度のリサイクルの原料が現時点で、展伸材で使われているのでしょうか。その答えは、製品ごとに大きく異なるというものになります。

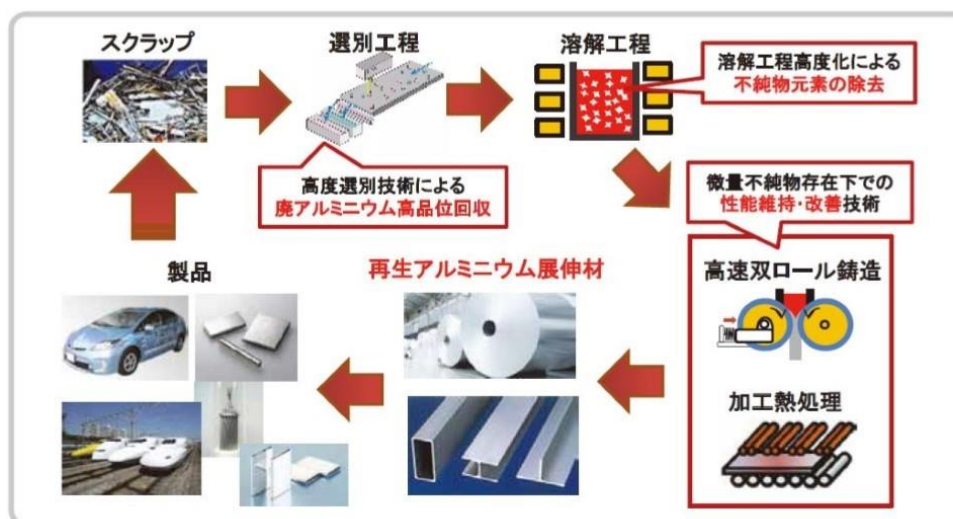
皆様のお手元にありますような、完全にリサイクル原料だけでなったような、われわれから見ると、未来から来たような製品も実現しております。それに対しまして、市中にスクラップがなかなか得られない、もしくはスクラップの利用により求められる製品特性が発現できないという理由により、スクラップ原料、再生原料の利用が非常に限られている、そういった製品分野もございます。

われわれは、持続可能な社会を実現するために、それぞれの製品において、需要家のニーズを満たした状態でリサイクル原料の割合を増やす、こういったことに取り組んでいきたいと考えております。そして、そこで弊社が持つ「技と術」を活用する大きな伸びしろがあるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

[回収・選別]+[分離・純度を上げる]+[使いこなす]の三方向からアプローチ



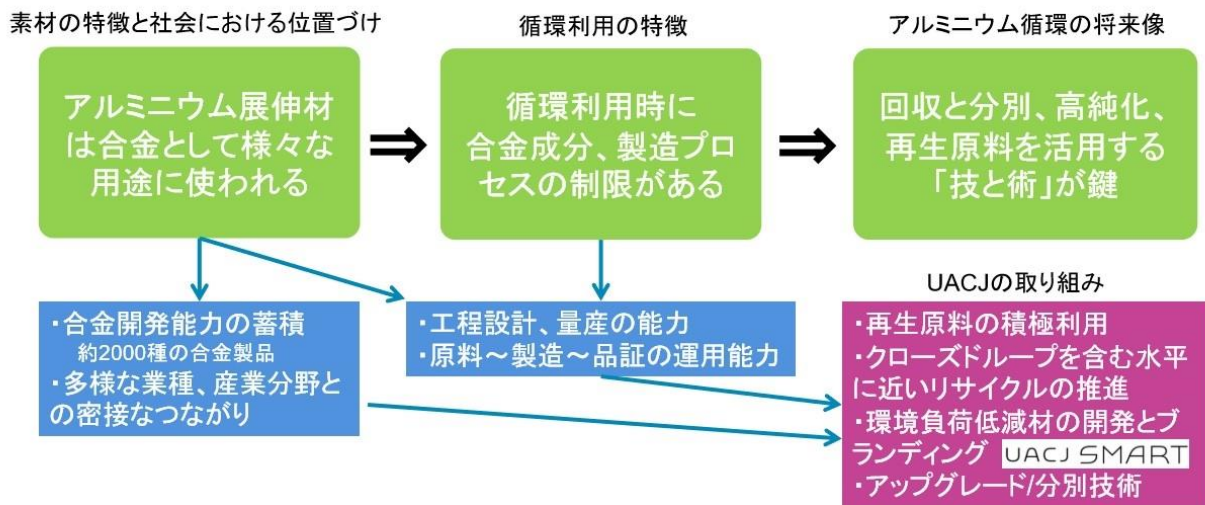
© UACJ Corporation. All rights reserved.

先ほどご説明いたしました、NEDOの助成事業におきましては、この課題に対して、三つの方向からアプローチをしております。回収や選別をするということ、分離したり、純度を上げるということ、そして添加元素がある程度入っていても、使いこなして、必要とされる特性を発現するといった取り組みとなります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

「アルミニウム循環の心臓」となるためのUACJの環境ケイパビリティ



© UACJ Corporation. All rights reserved.

最後に、こちらのパートでのご説明をまとめさせていただきます。

アルミニウムの展伸材は、需要家ごとのさまざまなシャープなニーズのために、合金として社会に提供されております。弊社におきましては、多種多様な産業分野、お客様とのつながりにより、さまざまな合金を量産してお客様にお届けするという能力を有しております。この能力は、今後の循環型社会においてもますます重要になるものと考えております。

また、それに加え、今後は回収や分別といった、さまざまなステークホルダーの協力が欠かせません。例えば「UACJ SMART」のような取り組みにおいて、環境負荷低減材をアピールし、ご理解いただくという活動を通じて、こうした回収と分別にも力を入れていきたいと考えております。

以上となりますが、アルミニウムの特性を考えますと、これからの持続可能な社会において、アルミが活用されていくことは疑いの余地はございません。そうした社会において、UACJが持っている能力をもって、われわれが活躍する姿にご期待いただきたいと思います。

ご清聴いただきまして、ありがとうございました。

上田：以上で、野瀬からのご説明は終了となります。野瀬さん、ありがとうございました。

続きまして、「人権の尊重と人材戦略がつなぐ軽やかな社会」につきましてご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人権の尊重と人材戦略がつなぐ 軽やかな社会

専務執行役員ビジネスサポート本部長
山口 明則



UACJグループのサステナビリティ関連施策

ステークホルダーの期待・信頼に応え、広く社会に貢献する企業を目指して

〈“人”に関わる4つの重要テーマ〉

それぞれに目標を掲げて施策を推進

すべての活動の前提となる
従来からの取り組みとしての
労働安全衛生

すべてのステークホルダーへの
人権への配慮

当社グループの従業員への
**多様性と機会均等
人材育成**
の実現



© UACJ Corporation. All rights reserved.

1

山口明則：山口でございます。UACJグループのサステナビリティ関連の施策についてご説明いたします。ここでは、われわれのマテリアリティで「人」に関する4つの重要テーマについて、お示ししております。

具体的には、すべての活動の前提となる労働安全衛生、すべてのステークホルダーを対象とする人権への配慮、多様性と機会均等、人材育成という、われわれの企業活動の柱になるものであります

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

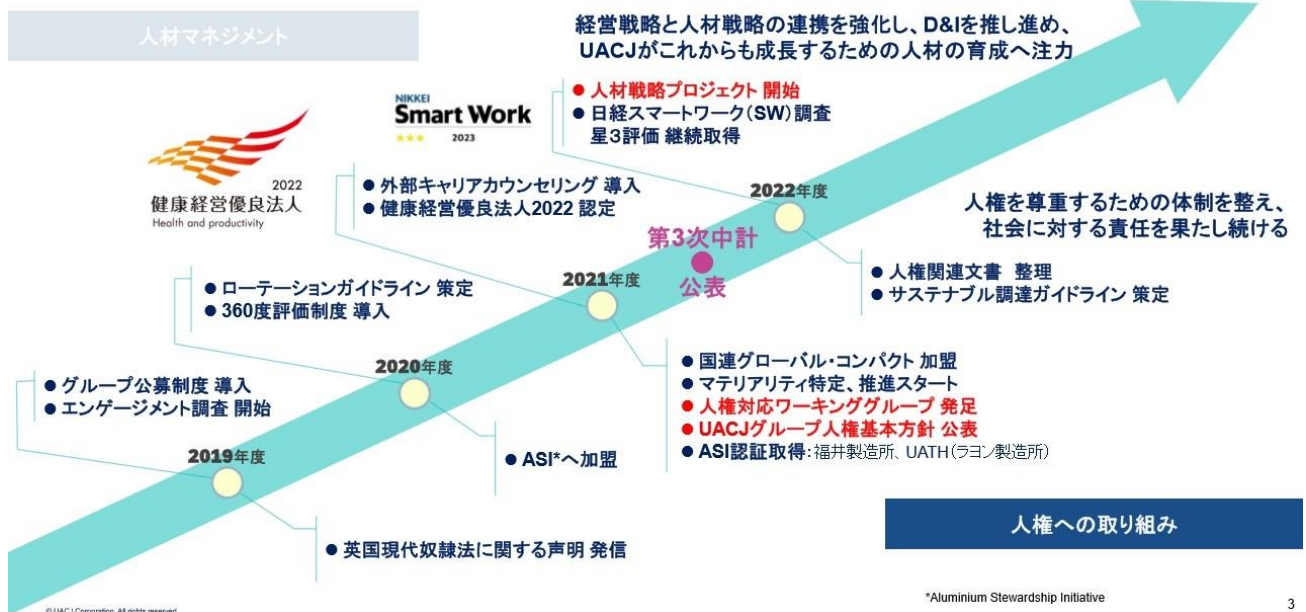
が、この四つを、地球環境と社会に良い影響を与えるため、全てのステークホルダーの人権を尊重し、従業員の安全と健康を守り、多様性を大切に考えて、人材の育成に取り組んでいくということでございます。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



人権への取り組み



これから、人権への取り組みと人材育成の取り組み、この二つのパートに分けてお話をさせていただきます。このページは一緒に書いてありますが、まず人権への取り組みであります。

この図の下側をご覧ください。人権に関して、2019年以降の活動の取り組みをまとめております。

2019年は、英国現代奴隷法に関する声明を発信しております。

2020年度にはASIへ加盟して、翌年度にはこのASIへの認証を取得いたしました。また、人権対応ワーキング・グループを発足させておまして、人権基本方針を策定しております。

2022年は、人権関連の文書の整備、あるいはサステナブル調達ガイドラインの整備を行っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人権への取り組み—社会の要請に応えるために

国家・企業に求められる人権への取り組み*



© UACJ Corporation. All rights reserved. *GCNJ HRDD第2回分科会資料よりUACJ作成

4

このページは、人権への取り組み、社会の要請に応えるためにということで示しております。

一番左は、国家が対応すべき人権の保護であります。われわれ企業は、この右にある人権の尊重、それから人権の救済、この二つの責任があるということであります。人権宣言をコミットいたしまして、それから人権デューデリを実施し、さらには人権について負の影響を受けた人々を救済する、こういったものに真面目に取り組んでいくことを掲げております。

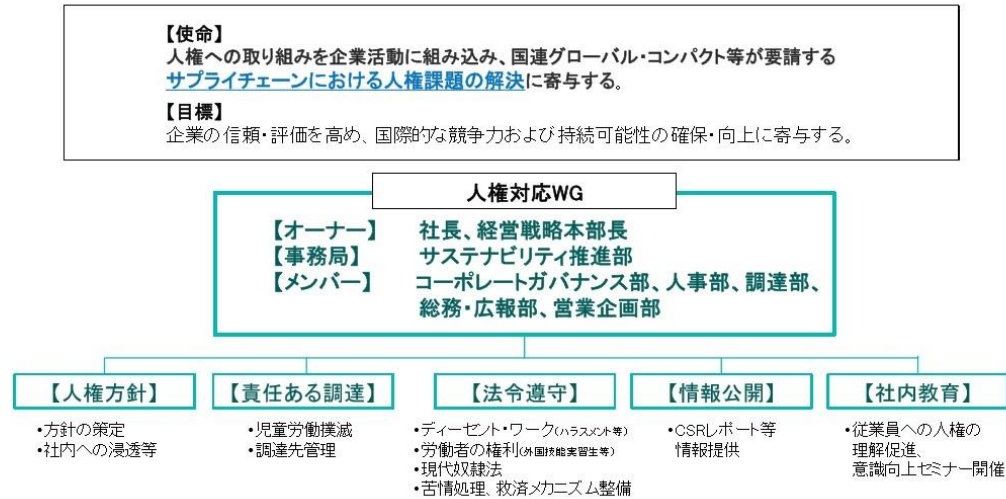
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人権への取り組み－人権対応ワーキング・グループ(WG)の設置

人権対応WGで、企業の人権尊重責任を果たしていくための課題を討議

体制図



© UACJ Corporation. All rights reserved.

5

ここでは、われわれの人権への取り組みの対応、ワーキング・グループと称しておりますが、その対応の状況について記載しております。

われわれは、国連グローバル・コンパクト等、世間が、世界が要請するサプライチェーンにおける人権課題の解決に向けて対応しておるわけですが、ここに記載のあるようなグループ体系で対応しております。

オーナーには、経営課題であるということでありますので、社長と経営戦略本部長を据え、事務局としてサステナビリティ推進部。メンバーには、コーポレートガバナンス部、人事部や、ここに記載のある関係する全ての部門が入って、このワーキング・グループを形成し、活動を進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人権への取り組み—人権NGOとの協働

人権NGO団体「ASSC*」と協働し、“外部の目”の観点を組み込む



© UACJ Corporation. All rights reserved.

*ASSC: The Global Alliance for Sustainable Supply Chain (<https://g-assc.org/>)

6

この人権対応ワーキング・グループは、人権NGO団体でありますASSC様と協業させていただいております。このASSC様は非常に豊富な経験のある第三者機関であります。こういった外部の目も取り入れまして、ビジネスと人権における課題解決への施策の立案、実行をこのワーキング・グループで行っておるといってごさいます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人権への取り組み—人権対応WGの活動

「人権基本方針(2022年3月公開)」、「サステナブル調達ガイドライン」の内容を討議



「UACJグループ人権基本方針」

<https://www.uacj.co.jp/sustainability/social/human-rights.htm>



人権NGO団体 ASSCを招き、
UACJが備えるべき人権への対応内容について討議

© UACJ Corporation. All rights reserved.

7

ここでは、活動の事例を示しております。人権基本方針を策定した会議の風景と、実際の文章の一部をここに記載しております。

この人権基本方針は、国際的な基準である様々なガイドラインを参照し、グループの企業理念、ならびに行動指針であります「UACJ ウェイ」に基づいて人権尊重の取り組み、その骨格を示したものでございます。

人権基本方針は、UACJ グループの全役員、全従業員、さらには全てのパートナーシップ企業に対して適用をさせていただくということであります。

この基本方針に基づきまして、サステナブル調達ガイドラインの見直しもこのグループの中で実施をしてきております。

サポート

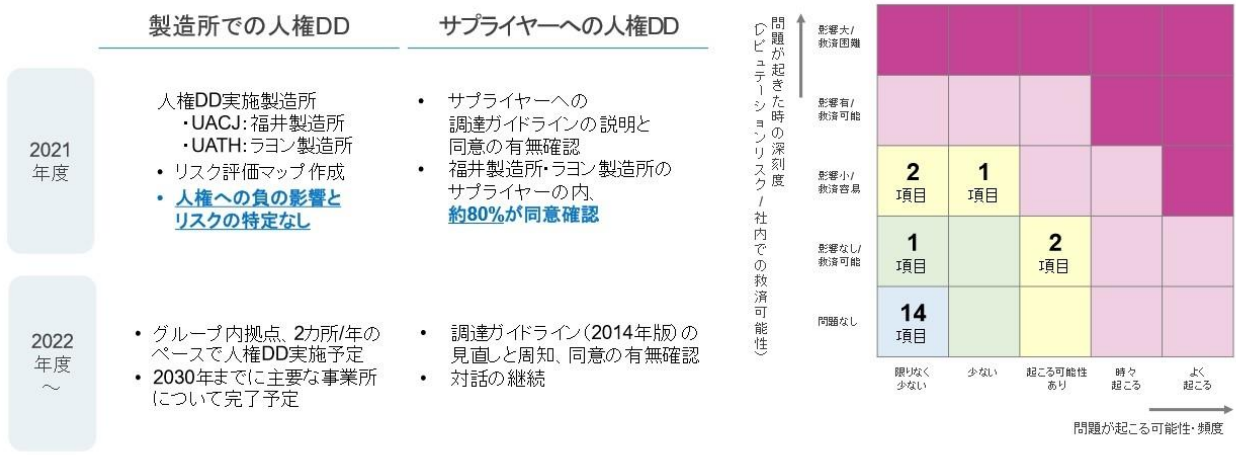
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



人権への取り組み—人権デューディリジェンス(DD)の実施と計画

2021年度、2製造所で人権DDを実施した結果、負の影響とリスクなし

2021年度実施 人権DD結果とリスク評価マップ



© UACJ Corporation. All rights reserved.

8

次は、人権デューディリジェンスの実施と計画についてご説明します。

2021年度は、福井製造所とUATH、タイであります。この二つの拠点におきまして、人権デューディリジェンスを実施しております。ここに記載してありますのは、ガイドラインに基づいた質問表を使って、リスク評価を行った例でありまして、福井製造所の例を記載させていただいております。

右に、そのデューディリジェンスの結果をマトリックスで示しております。この図を見ていただくように、右へいくほど重大な懸念があるわけですが、そういったものはないというのが今の状態でありましたが、中程度の懸念材料等がいくつかあるというのが実態であります。今後、われわれのサプライチェーンのパートナー企業さんとの対話も含めて、これから活動を進めていきたいと考えております。

なお、サプライヤー様の80%におきましては、すでにわれわれの方針に同意をいただいているという状況になっております。

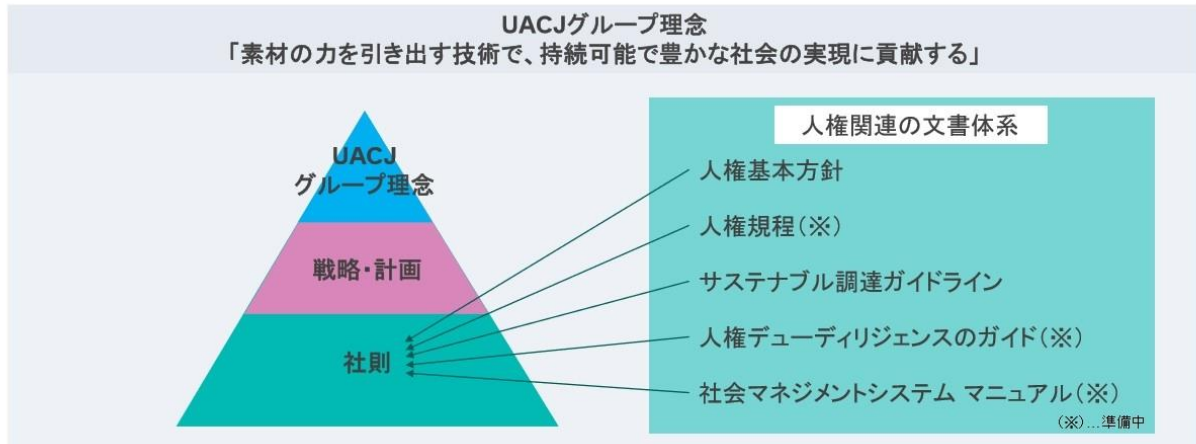
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



人権への取り組み—人権対応WG・成果

サプライチェーンにおける人権課題の解決を最重要課題として取り組みを深化させる



人権基本方針から順次、規程、ガイドラインおよびマニュアルを整備中

© UACJ Corporation. All rights reserved.

9

次、これも人権への取り組みの一部を示しております。

われわれは、ここにあるような社則体系を持っておるわけですが、UACJグループ理念を頂点とした体系を持っておりますが、この体系の中に、人権関連の活動を文書にいたしまして組み込んでいくということがございます。

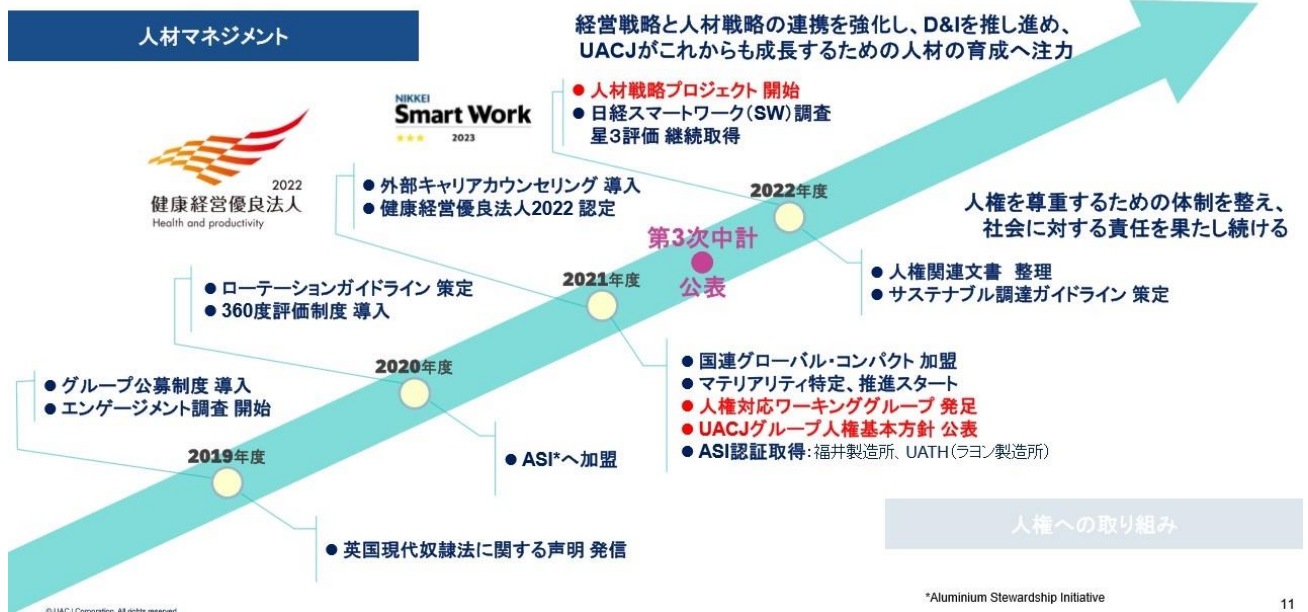
人権基本方針、規定、それからガイドライン、こういったものを整備して、活動ではそれに基づく人権デューデリジェンスを行いまして、いろいろなリスクの特定、対策の検討、それから、その結果のフォローという形で継続的に進めておるということがございます。

以上が人権への取り組みでありました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人材マネジメントのあゆみ



次は、人材マネジメントの取り組みについて紹介させていただきます。

この絵は、最初の絵と同じですが、人材マネジメントにつきましては、左の上をご覧ください。ここに2019年からの順番に、活動の主なものを示させていただいております。

まず2019年に、エンゲージメント調査を実施しております。これによりまして、人事諸施策の反映度というか、結果がどうであったか、こういったもの見える化が可能になっておりまして、それに基づき、現在PDCAを回すことで、その仕組みの構築をさらに進めているということでございます。現在までに、育成、採用、ローテーション、ダイバーシティ、健康、労働条件、こういった従業員のエンゲージメントおよび企業価値向上に向けて努めてまいりました。2019年には、先ほどのエンゲージメント調査のほかにもグループ公募制度を導入しております。

2020年には、ローテーションのガイドライン策定や、360度評価も取り入れて、従業員のエンゲージメントの向上を図っているということでございます。

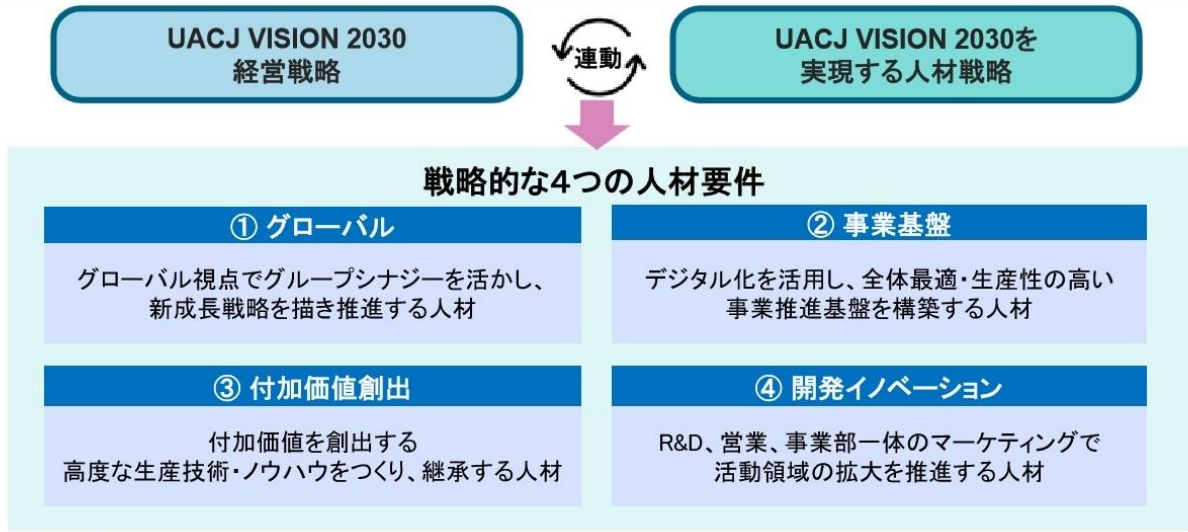
2022年度からは、経営目標達成に向けた人材戦略プロジェクトも本格的に始動しております。さらに、2021年度、2022年度と健康経営優良法人の認定をいただいております。まだまだ上はあるのですが、頑張っけてレベルを上げていきたいと思っております。さらには、日経スマートワーク調査にも参画しておりまして、まだ星三つであります。このトップは星五つになるのですが、重ねてレベルが上がるように対応していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

経営戦略と人材戦略の連携 STEP1

UACJ VISION 2030の実現を担う、戦略的な4つの人材要件を定義



© UACJ Corporation. All rights reserved.

12

ここは、経営戦略と人材戦略の連携ということで示しております。

今は、人材戦略プロジェクトのSTEP1が終わっておりますが、経営戦略の重要なゴールであります「UACJ VISION 2030」と人材戦略の連携、連動、こういったものを強化して、経営目標の達成に必要な人材要件を明確にしてきております。

ここに書いてある四つの人材要件、これが将来の「VISION 2030」を達成するために必要な要件と考えております。一つは、グローバルに対応できること、二つ目は、事業の基盤をますます強固にすること、三つ目は付加価値の創出ということで、これから素材+ α に向けて、ますますこれまでとは違う新しい活動をしていくということです。最後に、そういったものの基本となる開発イノベーション、こういったものの人材の確保と育成を図っていくことが人材戦略の柱となります。

サポート

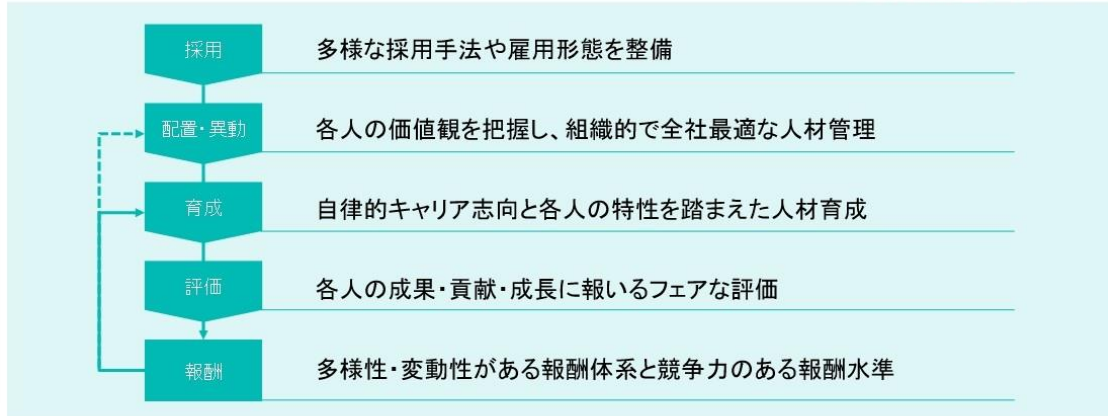
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

経営戦略と人材戦略の連携 STEP2

戦略的な4タイプの人材輩出のため、新たな人事制度・施策の設計へ着手

人材戦略

個人にフォーカスした多様なキャリア形成を実現し、各人のエンゲージメントを高める**人的資本型マネジメント**



© UACJ Corporation. All rights reserved.

13

現在、そういった状態の調査を受けまして、人材戦略プロジェクトはSTEP2に入っております。

先ほど言いました四つの人材を育成、確保するために、現在は新たな人事制度施策の設計に着手しております。ここに記載がありますが、経営陣が望むだけではなくて、従業員、あるいはこれから来る人たちに選ばれる、選ばれ続けられる、そういった切り口を加味しまして、会社だけではなくて個人にもフォーカスして、自律的なキャリア形成していただいて、会社に貢献をいただくという人的資本の拡充を図ってまいりたい所存でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)

競争力の源泉である多様な人材の採用と活躍できる環境を整備

定期採用

2022年4月入社

総合職18名(男性11名、女性7名)

技能職47名(男性42名、女性5名)

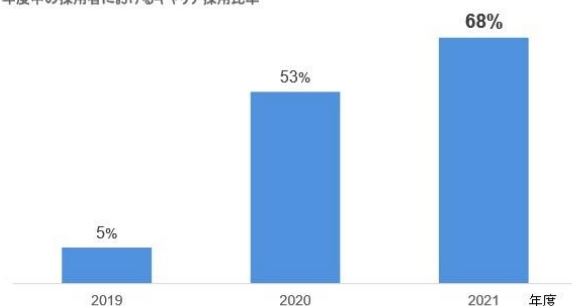


© UACJ Corporation. All rights reserved.

キャリア採用

多様性と競争力強化を目的に、
キャリア採用を積極的に実施

年度中の採用者におけるキャリア採用比率



14

次は、D&Iについての状況を紹介させていただきます。

左は、定期採用の状況であります。ここに示しているのは、全体の男性社員と女性社員の人数を示しておるわけですが、定期採用においては、工場のオペレーターというところであっても、いろいろな活躍を、いろいろな層、ダイバーシティに推進をいただくというために、いろいろな活動をやっております。各事業所でモデル職場を選定したり、あるいは職場環境の整備をして、これまでわれわれはほとんど現場では男性の社員でありましたが、女性の社員も入れるという形で対応を進めております。

それから、キャリア採用にも力を入れております。右のグラフは、キャリア採用の割合を示しております。こういったキャリア採用の方を入れることによって、われわれの多様性もどんどん推進されていくということを、われわれは実感しているところでございます。

サポート

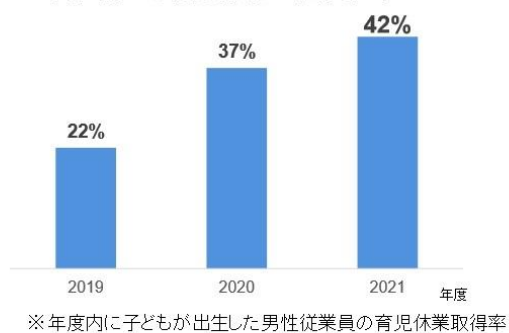
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)

仕事と家庭の両立を後押しする制度を整備し、育児支援を拡充

男性従業員の育児休業取得推進

子どもが生まれた男性従業員に対して、会社側から育児休業の取得をフォロー



主な育児支援制度と利用実績

制度	取得者数 (2021年度)
育児休業制度	男性67名 女性15名
短時間勤務制度	女性17名
積立休暇制度	男性28名 女性14名
ベビーシッター育児支援サービス	2名
育児休業者向けオンラインサービス	男性1名 女性9名

© UACJ Corporation. All rights reserved.

15

次は、女性活躍推進などの状態について記載しております。

左側は、女性だけではなくて、男性従業員の育児休業の取得の状況を示しております。年々、男性も奥さんと一緒に育児休業に参加するという状態が増えてきておりまして、現在では対象となる社員が40%が育児休業を取っているという状況でございます。かなり職場の理解も進んできていると考えております。

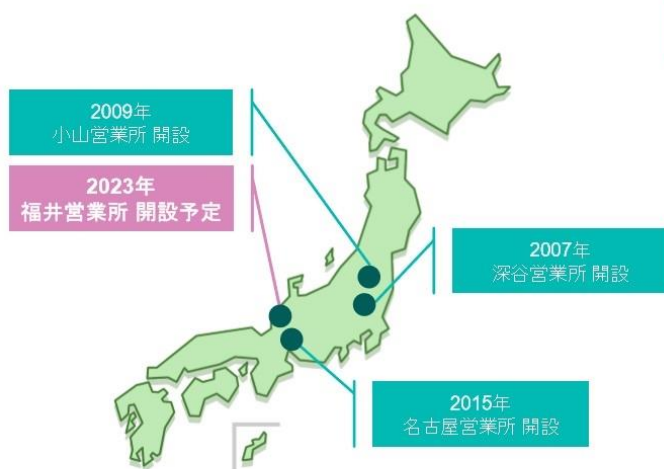
右には、そういった主な育児支援制度と実施の状況を示しております。だんだん定着してきているという手応えを感じております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)

特例子会社:UACJグリーンネットの活用で、障がい者雇用の場を拡充



© UACJ Corporation. All rights reserved.

UACJグリーンネット

2007年、古河スカイ深谷工場(現UACJ深谷製造所)内に設立。
障がい者を有する人が、安心して生活を送れるよう就労の場を提供。

2023年4月にUACJ福井製造所内に新事業所を開設予定。
従業員向けの福利厚生・事業展開のサポートと
障がい者雇用の場の創出の両立を目指す。



【事業内容一例】

- 製造所内、外部公共施設の緑化・清掃
- 名刺作成・カタログ配送などの事業サポート
- UACJグループ従業員向けの不織布マスクの製造(2021年4月～)

16

われわれは特定子会社、UACJ グリーンネットを持っておりまして、障がい者雇用の場を拡充しているということがあります。現在は、深谷と小山、名古屋で社内外の緑化であったり、清掃であったり、名刺の作成、カタログの作成、こういったものに携わっていただいております、さらに、その事業の開拓と職場訓練等を実施しておりますところでございます。

昨年、21年度には、深谷製造所に、社内向けであります、マスクの製造装置を導入いたしまして、この操業をグリーンネットさんをお願いしているという状況でございます。

来年度は、これまでの三つの事業所に加えて、福井にも事業所を展開いたしまして、さらに障がい者を有する人たちの働く場を提供するとともに、安心して働いていただくということが続けていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人材育成の基本的な考え方

- 1 従業員一人ひとりの学びによる成長
- 2 仕事を通して部下を育てる
- 3 組織で人を育てる

主な人材開発プログラム

- 1 階層別教育体系
- 2 ものづくり学園(「現場力」の向上)
- 3 U-KI活動(職場風土づくり)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

17

次は、人材の育成についてであります。

二つの箱がありますが、上は人材育成の基本的な考え方ということで、一つは、従業員一人ひとり、そういった人たちのサポートをする、それから、それを受ける職場の成長のサポート、さらには会社が成長する、こういったことを基本的な考え方としております。

そのために、階層別教育、ものづくり学園、U-KI活動というものをやっております。順番に次から説明させていただきます。

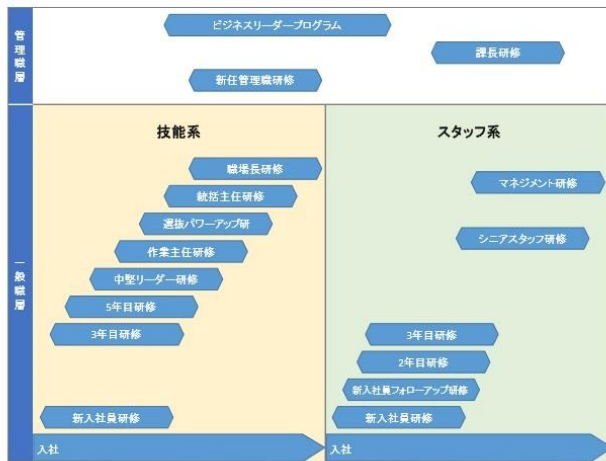
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

UACJの人材開発プログラム

教育プログラムの充実により、個々のステップアップをサポート

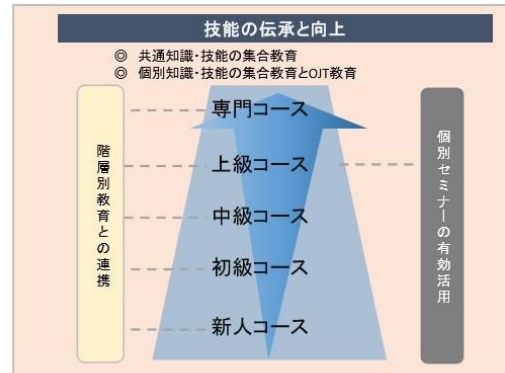
階層別教育体系



© UACJ Corporation. All rights reserved.

ものづくり学園(「現場力」の向上)

技能伝承の体系的な運営を目的に「ものづくり学園」をスタート、各事業ごとに活動展開
 ※若手社員の技能伝承は、定年退職した再雇用者の力を積極的に活用



18

ここは、階層別教育の概要を示しております。管理職層であったり、一般職層の技能職、スタッフ職、こういった層別に分けて、それぞれに会社が期待する内容、あるいは個人が成長する内容に向けて、いろいろな教育を実施しております。

右は、ものづくり学園の状況を示しております。ものづくりの精神、技能、ノウハウを次の世代へ引き継ぐ、技能を伝承するということを体系に実施しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人材育成 - 現場での教育:ものづくり学園

これまで培ってきた「技」と「術」を伝承し、「ものづくりは人づくり」を実践

製板技塾(名古屋)



保全道場(深谷)



三国板技塾(福井)



プレス技能伝承塾(UACJ 鋳鍛)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

19

ここで、ものづくり学園の活動の様子を写真で示しております。

左の上は製板技塾、ものづくりのための技塾、右は保全技能を磨くための保全道場です。左下も福井での技塾の様子を示しております。右下の写真は、座学だけではなく、やはり実際に技能伝承するために現場に行って活動しておるわけですが、こういった様子を示させていただいております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

UACJの人材開発プログラム – U-KI活動

より良い成果と人・組織の成長を同時に実現し続ける、元気なチーム作りを目指す

U-KI活動の展開 (UACJ Knowledge Intensive Staff Innovation)

U-KI活動を階層別研修に取り入れ、職場マネジメント力の強化と職場活性化を図る



© UACJ Corporation. All rights reserved.

20

もう一つの柱として、U-KI 活動というものをやっております。

U-KI の U は、UACJ の U、KI は、Knowledge Intensive Staff Innovation と言っておるわけですが、より良い成果と人、組織の成長と同時に、二つを実現し続けて、元気な職場をつくり上げる、こういった目的のために活動を行っております。

本音のコミュニケーションを図るということを切り口にしまして、全員野球で問題解決にあたる、そういった風土をつくるということで進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

UACJの人材開発プログラム – U-KI活動

本音のコミュニケーションを入り口に、知恵と力を合わせる全員野球の職場風土を醸成



© UACJ Corporation. All rights reserved.

21

次のページに、実際の U-KI 活動の様子を示させていただいております。

昔ながらの、こういった絵に描くだとか、集まってワイガヤするとか、こういったものも取り入れながら、いろいろな本音のコミュニケーションを行うという活動を進めております。

現在は、国内は 800 名ぐらいの方がこの活動に携わっておりまして、これからますます増やしていきたいと考えております。さらに、海外拠点である UACJ タイにも展開しておりまして、今、9 チームが精力的に活動しているという状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

地域社会、次世代への貢献

地域と共生し、次世代を育成しながら、ともに発展するための活動を積極的に展開

日経エデュケーションチャレンジ(日本経済新聞社主催)への協賛、講演(UACJ)



教育・研究機関への寄付活動(UATH)



地元小学校の社会科見学の受け入れ(UACJ鋳鍛)



「地球教室」(朝日新聞社主催)への協賛と出張授業(UACJ)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

22

さらに、地域社会、次世代への貢献ということで、いくつかの活動を示しております。

ここに記載があるような、地域と共生し、次世代を育成するという活動を地域社会と一緒に活動しながら、われわれの会社だけではなくて、日本、ひいてはグローバルの社会に貢献できるような活動を引き続き進めていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

「100年後の軽やかな社会」を実現する”土壌”と“人”を育てる



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

© UACJ Corporation. All rights reserved.

23

最後、少しもじりまして、「100年後の軽やかな社会を実現する“土壌”と“人”を育てる」ということをモットーにして活動を進めてまいります。

私の発表は以上でございます。ありがとうございました。

上田：山口からのご説明は以上となります。山口さん、ありがとうございました。

続きまして、「サステナビリティを支える UACJ のガバナンスとリスクマネジメント」についてご説明申し上げます。執行役員、経営戦略本部長、隈元穰治でございます。

隈元さん、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

UACJのサステナビリティ活動を支える ガバナンスとリスクマネジメント

執行役員 経営戦略本部長
隈元 穰治

© UACJ 2020/05/20. All rights reserved.



隈元：隈元でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今までのところで、当社の環境対応に対する取り組みや、社会との関わりに関する施策の一端をご紹介申し上げてきました。このEとSを支える施策、EとSとGが三位一体になってこそそのESGととらえ、それを支えるガバナンスとしてご説明をします。

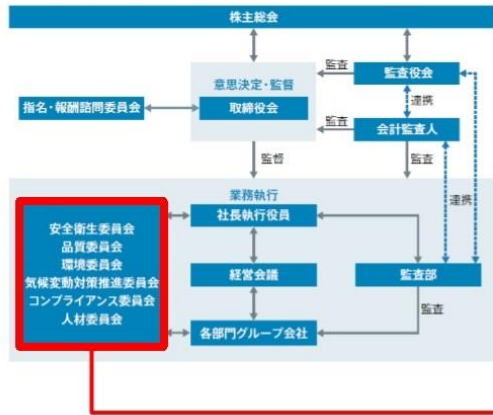
その中でも、本日はリスクマネジメントをガバナンスの質を高める施策と理解して、取り進めていると内容をご報告してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

コーポレートガバナンス/サステナビリティ活動/マテリアリティの関連性

コーポレートガバナンス体制図



サステナビリティ活動の推進体制

マテリアリティ	責任者	担当部署	KPIモニタリング	
			会議体名	頻度
気候変動への対応	気候変動対策推進担当役員	サステナビリティ推進部	気候変動対策推進委員会	3回/年
製品の品質と責任	ものづくり基盤本部長	品質管理部	品質委員会	年次
労働安全衛生	ものづくり基盤本部長	安全環境部	安全衛生委員会	年次
人権への配慮	ビジネスサポート本部長	コーポレートガバナンス部	コンプライアンス委員会	年次
多様性と機会均等	ビジネスサポート本部長	人事部	人材委員会	年次
人材育成	ビジネスサポート本部長	人事部	人材委員会	年次

© UACJ Corporation. All rights reserved.

1

このページでは、当社のガバナンス体制とサステナビリティ活動の関係をお示ししています。

向かって左側が当社のガバナンス体制でございます。当社では経営会議を据え、それに準ずる意思決定機関として、委員会を設定しております。

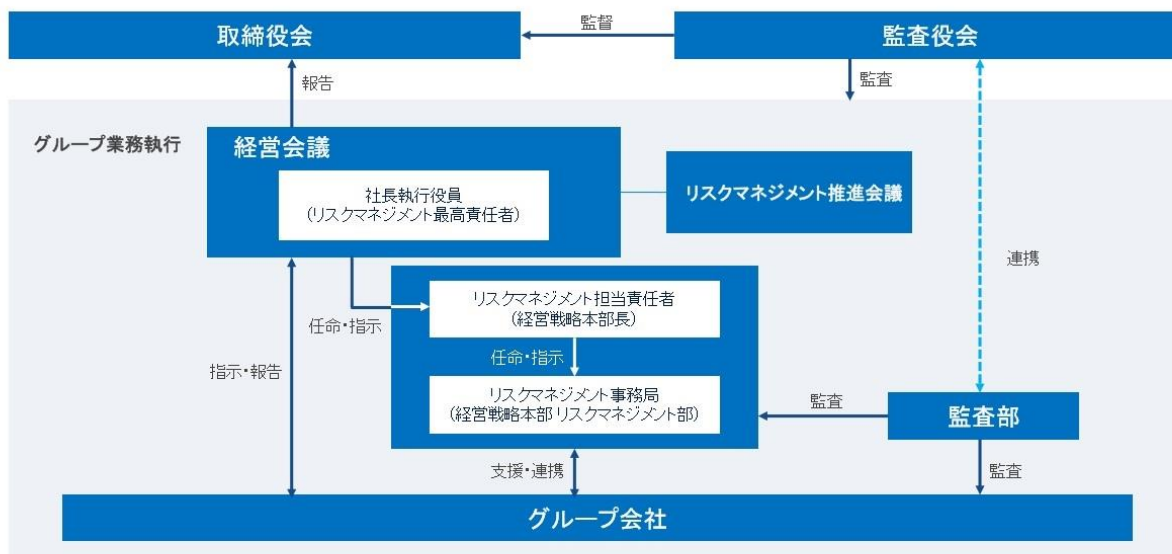
今度、右側のサステナビリティ活動の推進体制という表では、それぞれマテリアリティを縦方向に整理してございます。当社では各種委員会が、マテリアリティと1対1で対応するような形にレイアウトをしています。マテリアリティを委員会活動に落とし込み、委員会活動が経営会議に準じた意思決定のプロセスの中で運用されているという流れでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



リスクマネジメントのガバナンス体制



© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

ガバナンス体制の中でのリスクマネジメントの立ち位置について、このページでご説明をしております。

社長の石原がリスクマネジメントの最高責任者であり、その下で、私が経営戦略本部長として、グループのリスクマネジメントを統括するというイメージ図でございます。

経営会議直下にリスクマネジメント推進会議を設置しておりますが、これは次のページで詳しくご説明をしていきたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

会議体の改善 – 機動性と深化の両立を目指して

リスクマネジメントに関する会議体の見直し



©UACJ Corporation. All rights reserved.

3

リスクマネジメント推進会議は、2021年度まではCSR委員会として、サステナビリティ、コンプライアンス、これに並んでリスクマネジメントをディスカッションし、施策を決めていくという取り組みをしてまいりました。

2022年度からこれを改め、意思決定のプロセスは経営会議、それを補完する仕組みとしてリスクマネジメント推進会議を設けております。

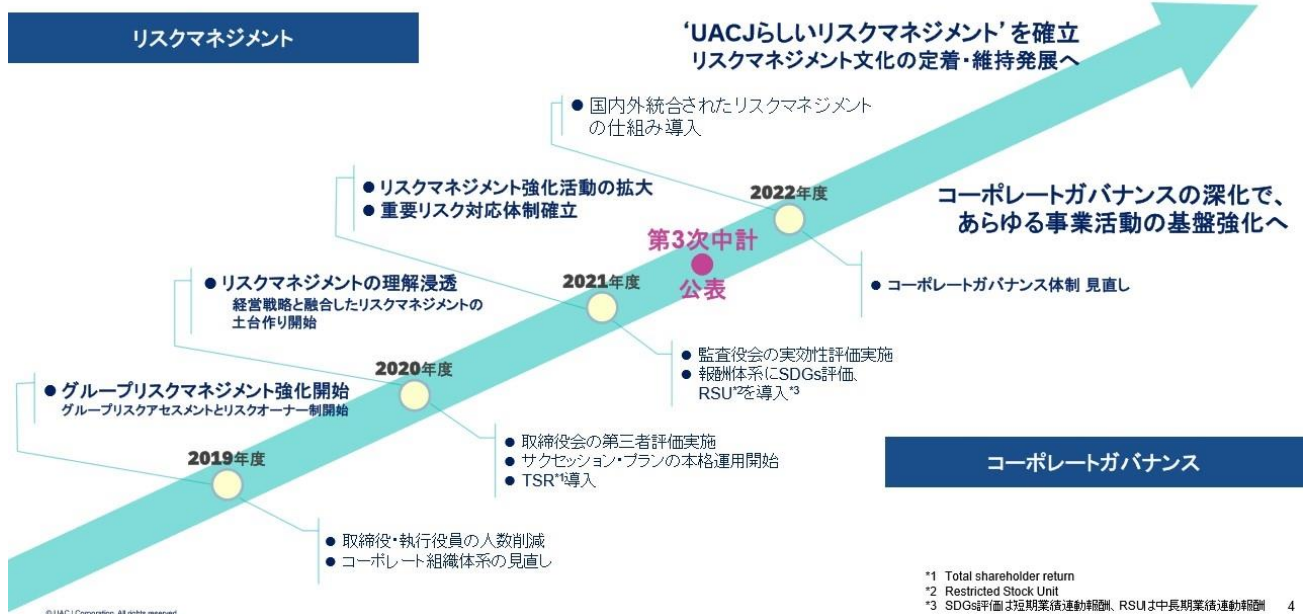
当社の各種委員会は年に1回ないしは3回程度開催することとしておりますが、月2回開催の経営会議にリスクマネジメントに関する意思決定の場を持つてくることによって、さらなる機動性を担保しようというところでございます。

このリスクマネジメント推進会議を設置した目的としては、リスクの本質に対して多面的かつ正確に捉えようではないかということ、それと、その捉えたリスクへの対策をより深く、当社にふさわしい形で対策を取っていくことであり、機動性と深掘の両立を図りたいと考えたものです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

強化・改善のあゆみ



これは、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、それぞれで取ってまいりました施策を年表にまとめております。

この中でハイライトしたいのは、2021年度の重要リスク対応体制の確立とある箇所です。ここで今のリスクマネジメント部を創設しております。

さらに、リスクマネジメント対応策として、リスクを重要度、あるいは重大度に分けて、クラス分けをして対応する取り組みも、このときに導入しております。

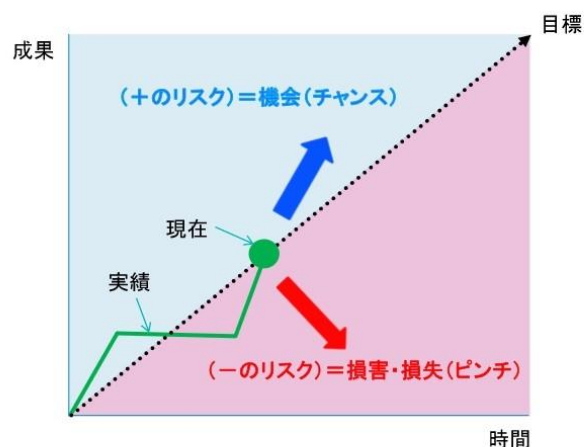
加えて、リスクマネジメントはほかの誰か、例えばリスクマネジメント部や推進会議とか、誰かがやってくれるものではなく、一人ひとりがリスクに対する目配りをして、その対応をしていく、あるいは対応が必要です、ということを発信していくことの重要性を浸透させ、「全員参加のリスクマネジメント」と私どもでは呼んでいるものにつなげたいという目論見でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

UACJが考える「リスク」

リスク = UACJグループ理念の実現を不確実にする全ての事象



【プラスのリスク】

将来の収益・成長への機会

【マイナスのリスク】

自然災害
操業に関わる事故
コンプライアンス違反
市場環境の急変
その他損害・損失に直結しかねない事象

© UACJ Corporation. All rights reserved.

5

当社が考えますリスクの考え方について、あらためてご説明したいと思います。

このタイトルにありますとおり、リスクとは「UACJグループの企業理念の実現を不確実にする全ての事象」であるということです。これは米国の COSO（トレッドウェイ委員会支援組織委員会）や、ISO31000 のフレームワークを活用しているものです。

リスクというのは、将来の成長の機会ですとか、ビジネスの機会を逸することもリスクなのだと認識しています。要は、プラスサイドを取り込めないということもリスクなのだと考えております。

下の段で整理いたしましたのは自然災害ですとか、操業に関わる事象、コンプライアンス、これは世の中一般で言われているリスクでございますが、加えて上段のプラスサイドのほうのチャンスを逃してしまうということ、これもリスクなのだと認識しています。先ほど、リスクマネジメント推進会議のご説明の中で、「リスクの本質を正しく見極めたい、多面的に分析したい」と申しましたのは、ある事象を多面的に観察して、適切に対応していく、過不足なく対応していくという考え方でマネジメントを進めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

リスクマネジメント活動 – 基本方針

私達、UACJグループの役員及び従業員は、**UACJグループの事業を継続的に成長発展させることを目的として、次に定める活動をリスクマネジメントと理解し、全員参加で取り組む。**

(1) 平時のリスクマネジメント

日頃からリスクに対する感度を高め、リスクの内容を的確に把握し(**リスクの見える化**)、リスクの影響を許容可能な範囲内に収めるよう自ら進んで管理する(**リスクマネジメントの自分事化**)。

(2) 有事のリスクマネジメント

リスクが顕在化した場合、以下の優先順位に従い、**UACJグループとして正しいことは何かを判断し、それぞれの持ち場で迅速に事態収拾を図る。**

- ① 社内外を問わず人身の安全確保(**1に生命、2に健康**)を最優先とし、**被害の最小化**に取り組む。
- ② ステークホルダーとのコミュニケーションを継続し、**信頼と安心を確保**する。
- ③ 社会機能維持を担う製品・サービスの**供給維持**を通じて社会的責任を果たす。

© UACJ Corporation. All rights reserved.

6

これらのリスクマネジメントは、基本方針を定めて大きな方向性を示しつつ、取り組んでいます。当社、全ての活動がこの方針を取っております。

大きく分けまして、リスクマネジメントでは、平時のリスクマネジメント、それから有事のリスクマネジメント、大きく2つの流れがあります。

まず平時のリスクマネジメントのところですが、まずリスクにはどんなことがあるのかを可視化する、見える化するということが、それと自分ごと化していく、これは先ほどご説明したとおりです。

二つ目の有事のリスクマネジメント、これはリスクが顕在化して、すでにゴーイングコンサーンになってしまっているときなのですが、私どもは、特に(2)の①のところに書いてある人身の安全、これが最優先事項であると強く認識しており、それぞれの現場で自律的に何が最善かを判断できるように、訓練を重ね、教育活動も行っています。

当社がなぜ全員で取り組むリスクマネジメント活動を強調しているかということ、誰かが判断してくれるという考え方では、本当の非常事態が起きたときに、正しく判断できない、正しく行動ができないリスクを抱えているということでございますので、日頃からそういう習慣を身につけるようにしていきたいという流れでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



グループレベルで認識しているリスク(2022年度)

外部に主要因のあるリスク

- 新型コロナウイルス感染症の流行等、感染症のまん延
- 気象変動等地球環境の変化 ★ ★
- 自然災害 ★
- 政治環境・経済動向の変化(地政学的リスク) ★
- 社会的基盤となる技術や需要構造の変化 ★
- 市場変動 ★

会計上の評価・見積りに関するリスク

- 固定資産の減損
- 繰延税金資産の回収可能性

内部に主要因のあるリスク

- 製品の品質 ★ ★
- 安全衛生 ★ ★
- 人材育成・配置 ★ ★
- 人権への配慮 ★ ★
- 多様性と機会均等 ★
- 法令遵守(コンプライアンス) ★
- グループガバナンス ★
- 情報管理
- 資金調達

★ マテリアリティに関するリスク
★ 個別の委員会により対応推進しているリスク
★ 役員クラスのリスクオーナーにより対応推進しているリスク
★ 部長クラスのリスクオーナーによる対応推進しているリスク

© UACJ Corporation. All rights reserved.

7

ここに整理しておりますのは、今年度の当社グループとして認識すべきであろうと考えたリスクでございます。

お示ししているとおり、外部に主要因があるもの、われわれの中にあるもの、会計的にリスクが生じるものと、大きく3つに分けております。

星のマークをいくつか付けております。色分けをしておりますが、ピンクの星が先ほど申しましたマテリアリティに関するもの、緑の星が委員会で取り上げてディスカッションをしているもの、それから青が、役員クラスがリスクオーナーとして、グループレベルで取り組んでいるリスクとなります。これについては次にご説明します。

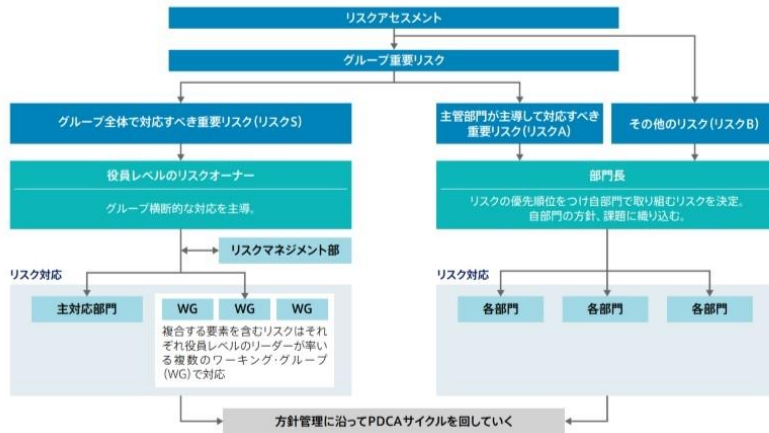
この星が付いているものは、今いま一連でご説明してきたガバナンスとリスクマネジメントの関係という中で整理されているのですが、星の付いてないものもいくつかございます。これらはコーポレートが主体となって、ごく日常的にリスクマネジメントされていくものと考えます。これらも誰かがやってくれるリスクマネジメントではなく、自ら取り組んでいくリスクマネジメント活動であると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

リスクマネジメント活動 – リスクレベルに応じた取り組み

リスクマネジメントのプロセスと対応



1. リスクアセスメントを実施(年次)
2. グループ全体で、横断的に取り組むべきリスクを選定
 - ① 既存の委員会等で取り組むリスク
 - ② リスクオーナー主導の体制で取り組むリスク
 - ③ コーポレート主管部門主導で対応するリスク
 - ④ その他、各部門・各グループ会社で取り組むリスク
3. 年度の方針管理に沿ってリスクのPDCAを実施

© UACJ Corporation. All rights reserved.

8

これが、先ほどご紹介しました、リスクレベルに応じたリスクマネジメントの取り組み表でございます。

図の上から3段目のところをご覧くださいますと、グループ全体で対応するべき重要なリスク（リスクS）であり、前のページでご紹介した、青の星、要は役員級の責任者を配置してのグループ横断的で取り組むものです。

それから右側、これは2つに分けておまして、主管部門が主導して対応すべきもの、例えば為替のリスク、あるいは為替予約の仕組みというのは経理財務の部門の専門でございますので、これはそれぞれのビジネスの現場でリスクを認識するものの、実際のアクションはそういう組織を通じてやるというイメージです。

これらを年に1回、ちょうど今頃の時期、リスクアセスメントとしてグループ横断で取り組んでいます。今の足元のリスクのマネジメント状況についてどうか、昨今の時勢に鑑みて、来年度、集中的に取り上げるリスクとしてはどんなものがふさわしいか、というような議論を経て、グループレベルでのリスクを選定し、取り組んでいくという流れです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

企業経営の中心にサステナビリティを据えて

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

© UACJ Corporation. All rights reserved.

9

最後となりますが、冒頭で申し上げましたとおり、ESG、EとSとGがそれぞれ調和しながら企業価値を高めていくという取り組みですが、なかんずくガバナンスという部分につきましては、EとSの施策を支える土台になり得るものと考えております。

そうしたガバナンスの質を高めるというところで、リスクマネジメントが非常に大きな役割を担っておるという認識です。

「100年続く軽やかな社会」の実現に貢献していきたいという想いで、今後もリスクマネジメント活動に取り組んでいきます。

ご清聴ありがとうございました。

上田：以上で、隈元からのご説明は終了となります。隈元さん、ありがとうございました。

当社からのご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

質疑応答

上田 [M]：これより、皆様からのご質問をお受けいたします。

では、最初のご質問は、SMBC 日興証券 山口様、よろしくお願いいたします。

山口敦 [Q]：今日はどうもありがとうございます。SMBC 日興証券の山口でございます。

一つは、やはり製造現場の課題として、どういうところが最も二酸化炭素が出ていて、どういう課題で、どういうふうに解決しているのか、もうちょっとテクニカルに教えていただきたいというのが1 問目です。

2 問目は、リサイクルを進めるとはいえ、地金を使っていくと思うのですが、同じ地金でもグリーン地金と、従来の地金があると思います。なるべくグリーンな調達を目指すというところですが、アルミニウムの製錬業が日本にないので、そこら辺の理解が不足しています。例えば大手の製錬企業では水力発電の採用があると思うのですが、地金を使っていく中でのグリーン調達をどうされるか教えてください。

3 点目は、リサイクルの現状というか、それぞれすごく大変なのですが、リサイクルループをつかって、どんどんこれからやられていくということですが、各製造拠点の進捗等、今後の課題とか目標がありましたら教えてください。

以上3 点です。よろしくお願いいたします。

田中 [A]：では、田中から、まず1 問目の質問についてご回答申し上げます。

私どもの活動の中では、先ほどもご説明させていただきましたが、自助努力でできる Scope1・2 が重点となります。1 番というのは、直接排出になります。2 番というのは、間接排出。例えばわれわれは燃烧炉を持っております。そこに、LNG 等の燃料を加えて、直接的に燃烧して排出されるものを Scope1 の直接排出としてカウントします。Scope2 の間接排出は、購入した電力に対し、その電力を発生するために使用する CO₂ が含まれるというものになります。

従いまして、Scope1 について言うと、例えば鑄造炉や加熱炉を主体に、原単位を向上させる、あるいは放熱を縮小、最小化する、こういった活動が非常に重要になります。省エネ活動のさらなる推進の対象となります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



もう一方の Scope2 に関するところ、間接排出におきましては、自主的に発電するという。これは先ほどの太陽光発電であります、そういったものにあたります。あるいは、購入する電力ではできる限り、再生可能エネルギー由来の電力を購入する、調達することで削減することで考えております。

Scope3 におきましては、説明のとおり、サプライチェーンを通じた協業をしていくことで削減を進めていきたいと考えております。

石原 [A]：製造の現場ということでお話をしましたが、われわれの現場というのは、営業の現場もあったり、コーポレートの現場もあったりするわけですが、製造の現場においては、特にテクニカルということでございますが、やはりお客様と CO₂ 排出抑制について、しっかりと議論するというのだと思っています。

そういった意味で、直接お客様と接点のある営業からの情報を社内で必ず共有し、お客様に対して適切にご回答申し上げて、望ましいリサイクルループをつくるという意味で、リサイクルの完成機構というのを設けています。その完成機構を機能させることが、営業の現場の課題と捉えていますし、コーポレートの部分でいうと、やはりアルミが使われることによって、どう CO₂ 排出抑制ができたかが重要です。

Scope3 の、いわゆる下流の部分におけるルールメイキングも含めて、私たちがお客様としっかりと会話をすることが大事ですので、コーポレートの現場の課題かなと考えております。

二つ目の、グリーン地金のお話について、これも田中からご説明いたします。

田中 [A]：地金調達に関するご質問でした。グリーン地金をどうやって調達していくのか、今後どうしていくのかということであろうと思います。

地金につきましては、何をもちってグリーン地金ということですが、例えば水力由来の地金、これは当然、石炭であったり、LNG であったり、そういったものからの電力からすると、かなり低い CO₂ の負荷ということになります。

ただし、こちらの低炭素由来の地金というのは、一定量、限られたことになります。従って、限られた調達先から常に購入を続けることは非常にリスクを伴いますので、今の調達先にくわえてさらに水力の調達を含めた低炭素のサプライヤーを増やしていくことが非常に重要だと考えております。

現時点も、水力由来による、あるいはそのほかの再生可能エネルギー由来の低炭素地金のサプライヤーを広くあたりながら調達先を求めていくということで、今、活動を展開しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



石原 [M]：それでは、三つ目のリサイクルループについては野瀬から。

野瀬 [A]：ご質問は、リサイクルの循環を促す上での社内での仕組みのご質問だったと理解をいたしました。

私からもご説明差し上げたように、再生原料をより多く使うというのは非常に本質的であります。それが、会社全体の目標であります Scope1・2 の削減、2030 年、2050 年と結びつく必要がございます。社内では、リサイクル原料をどの程度使っているかに関して、社内の管理指標を持っており、それと大きな会社全体での目標が結びついている、そういった状態で管理をしております。

石原 [A]：現在、リサイクルループの確立という意味では、アルミ缶の領域が国内、海外含めてできています。それに加えて、近年では自動車、特にボディパネルの領域で出来つつありますし、従来からまだ量は少ないですが、印刷版とか、そういった領域でも構築がされていきました。それがどんどんこれから広がっていくというのは、このリサイクルループの現状ではないかと思っています。

山口敦 [M]：ありがとうございました。もし次回、機会があるようであれば、今どれぐらい現状でリサイクル率が各拠点であって、あるいは品種別にあって、今後、どういうところまでいけるかどうかみたいな、何かそういった目標値があったりするとうれしいです。どうもありがとうございました。

石原 [M]：ありがとうございます。ぜひそんな機会をつくりたいと考えます。

上田 [M]：質問ありがとうございました。

では、続きまして、モルガン・スタンレーMUFU 証券株式会社、白川様、よろしくお願いたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。本日はどうもありがとうございました。質問 2 点、よろしくお願いたします。

今回のプレミアム・モルツの 100%リサイクル材で作った缶というところで、かなりいいキャンペーンにはなったと思っているのですが、こういったリサイクルを前面に打ち出した製品への引き合いが実際に本当に増えてきているのか。例えば、自動車とかだったら何となく分かるのですが、こういったアルミ缶というところで、消費者が本当にリサイクル 100%になったところで、購買意欲が本当に上がってくるのかに関して、今どのように考えているか教えてください。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



あと、それに付け加えて、例えばリサイクル 100%にするためには、特別な集荷とか、いろいろしなければいけないと。ボディ材とかエンド材が違うのでというお話でしたが、そうなってくると、たぶんコストが従来のものと比べると少し高くなってくると思います。そのコストをしっかりと転嫁できるようなマーケット、もしくは今後そういうふうになっていくのかも併せてご回答をお願いいたします。これがまず 1 点目になります。

2 点目が、また E のところで大変恐縮なのですが、来年からタイのラヨン製造所において、アルミ缶のリサイクルの設備を導入するというお話があったかと思えます。これによってもし、数字があればいいのですが、新地金の使用量がどれだけ減るかとか、リサイクル率がどれだけ上がるかとか、それによって収益への影響がどう変わってくるのか、もしコメントがあればよろしく願いいたします。

以上 2 点です。お願いします。

石原 [M]：ありがとうございます。1 点目は、今回のプレモルの 100%リサイクル缶に代表されるように、事例がどんどん増えるということがあっても、それが選択されていくのだろうかというお話がございました。加えて、100%回収ということ、100%のリサイクル材を使うことにおいてコストの上昇が予想されるが、これをどう転嫁する、あるいは転嫁する必要はないのか、あるのかということも含めてのご質問でございます。

では、まず 1 問目は田中から。

田中 [A]：今、プレミアム・モルツを事例にご質問をいただいたと思えます。

本件によって引き合い等が増えているかということについてですが、必ずしも今回のプレミアム・モルツだけに限ったことではありませんが、リサイクル材に関してのお客様からの引き合いは徐々に増えています。今回のモルツの発売によって、それはかなり加速されたのではないかと考えています。

この缶以外においても、実はお客様からは自動車をはじめとして、いろいろな用途のお客様から、少しでもアルミニウムのリサイクル率を上げられないかなど、いろいろな問い合わせを多くいただいています。そういった点ではわれわれとしては、いい方向に進んでいくのかなという感覚は持ち合わせています。

一方、では、こういったものを 100%と言わずとも、リサイクル率を上げていくところで、コストとかはどうなのだという点について言うと、特に 100%となれば、現時点では特別な選別であったり、分離であったり、各工程でのコントロールであったり、当然手間もかかるため、コストとして

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



上がってまいります。しかしながら、CO₂を削減することに価値があるのだということをご理解いただき、またリサイクル材を活用できている当社製品には高い付加価値があるということを訴求することで、大きなバリューアップにつなげていかなければならないと認識しています。

石原 [A]：石原です。

やはり、そういう 100%のリサイクル材と、そうでないものが二つ並んでいたら、これからの世代は 100%のリサイクル材を選ぶ、そういった世代が増えてくると考えています。そうすると、そのコストにかかる課題も解決していきたくらうと思います。ただ、やはり量が出ていくということが大事です。利活用が増える、これが必要な施策だらうと思います。

二つ目のタイのラヨンにおいて、リサイクルの設備を導入するというので、これがどう収益面で効果を出してくるかという話ですが、私から。

数字的なところは、申し訳ございませんが差し控えさせていただきます。いずれにしましても、UBC（使用済み飲料缶）を回収して、それを再利用するためには、もう 1 回溶解する必要があります。それは UBC 専用の溶解炉でもって処理することが、コスト的、品質的にも重要なことです。

従って、UATH のラインに導入するのは、UBC を溶解するための設備です。改修等々については、現在のタイの東南アジアにおける環境を活用して、皆様と一緒にやっていくという体制を取っております。

以上です。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

では、次は、野村証券株式会社、松本様、よろしくお願いいたします。

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。よろしくお願いいたします。

1 点目は、プレミアム・モルツの 100%リサイクルが世界初ということですが、何か技術的な御社の強みとか、さっき UBC の溶解が必要というお話がありましたが、それが、入れれば、ほかの会社もすぐできるようなものなのか。その技術的な強みと、御社がもしかしたらコスト安く、ほかに比べてできるのかななんて思ったりして、その辺の何かお話があれば教えてください。

2 点目は、最初の質問のところで、田中さんから Scope1 のお話、CO₂の削減の話があったのですが、省エネと比較的、省エネ対応は経済的にもプラスに働くのでやりやすいと思うのですが、コストがかかっても GHG を減らさなければいけないものというのは、どういう意思決定を御社ではし

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ているのか。省エネは割と簡単だと思いますが、コストがかかっても CO₂を減らさなければいけない、という投資の意思決定はどういう考え方でやっているのか教えてください。

石原 [M]：ありがとうございます。まず、1点目のプレモル 100%の件で、当社が果たした技術的な強みについて、田中から。

田中 [A]：では、田中から回答させていただきます。

100%リサイクル材を活用するという点についての、UACJにおける特徴はどんなところにあるのかということだろうと思いますが、ここはいくつかあります。

回収や入手の仕組みであったり、選別、分離するという技術であったり、これを加工していく、またさらに、お客様から上手に回収していく、こういったいくつかの技術が重ね合わさった状態で、今回の 100%リサイクルができているというものになります。

では、ここに対する、これはコストの話も出ておりましたかね。コストはどのような点について言うと、やはりそれだけの手間隙がかかりますので、コスト的にもそこに関わってくるようになってまいります。さきほどもお伝えした通り、リサイクル材を活用することに対する高付加価値を訴求することは当社の企業価値の向上にもつながるものと考えております。今回、プロジェクト的にこういった形で展開しておりますが、さらにほかの製品に対しても大きなメリットを取り込むことによって商品価値を上げていくという形で展開していきたいと考えています。

石原 [M]：アルミニウム合金という点から、野瀬さん、付け加えることありますか。

野瀬 [A]：はい。技術的な難しさに関するご質問かと認識をいたしました。

田中より説明させていただきましたように、やはり広義の技術がこの実現には鍵になったと考えております。新地金を使って作る場合には、その合金成分の制御というものは比較的容易です。それに対して、市中から入手されるスクラップを使う場合には、いろいろな制限が加わります。そうした制限がある中でも、まったく同じ品質の汎用の板材としてご提供できる、そういった総合的な能力で、弊社の強みが生きているものと考えております。

石原 [M]：それでは、二つ目の Scope1・2 の省エネですとか、そういう効果の明確なものに対する投資判断は従来からやっているということでしょうか、GHG の削減等々において、コストと従来の評価にない面での投資効果、このことをどう考えるかということでした。

では、田中さん。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



田中 [A]：こちらにつきましては、われわれは年計、あるいは中計の中で、環境対応コストを最初から設定して、その範囲内で展開しております。

その中において発生する、対応によって削減する CO₂ の量は決まってくると思いますが、投資と削減の CO₂ の量、あるいは長期にわたったときに、そういったものがどう展開されるのかということも含めて、総合的に一定のこれだけということの基準ではなくて、全体的なこのあとの長いスパンも見つめた中で、年計あるいは中計、さらに 10 年先にわたって、こういったものがどういった価値を生み出すのか、そういった観点での検討をして、重点的に優先順位を付けながら投資を進めているという状況でございます。

石原 [A]：石原です。

加えますと、具体的な数字化、CO₂ の排出抑制という意味での数字化は、一つ例として、炭素税というのがあるかと思えます。こういったものが導入された場合ということで、評価をすればいいかなと現在では考えております。

以上です。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、大和証券株式会社、尾崎様、お願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。

まず 1 点目がガバナンスに関してです。社外取締役の方も含めた形での取締役会の議論の内容とか、こういった企業価値向上に向けて、監督機能をどのように発揮されているかをご紹介いただければと思います。あと、役員報酬の中で SDGs 評価をおそらく業績連動の部分で導入されていると思うのですが、具体的にこういったテーマで考えていらっしゃるのか。あと、今後の役員報酬の考え方についても教えてください。これが 1 点目です。

2 点目が人的資本のところですが、労働安全衛生について、今日はそこまでご説明がなかったと思うのですが、災害度数率の水準でいうと、御社は目標とされている水準に届かない水準だと思うのですが、その原因と今後の対応策をどのように考えていらっしゃるかを教えてください。

最後 3 点目が、自動車用のアルミパネルの材料に、リサイクル材も使っていないと、おそらく鉄鋼も電炉材とかで鉄スクラップを使ってくると思うので、そこは重要になってくると思うのですが、技術的な観点から、自動車のアルミパネルにリサイクル材料を使うことの課題はどういったところがあるのか教えてください。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



以上、三つです。

石原 [M]：ありがとうございました。一つ目が、ガバナンスの観点でサステナビリティに関する部分が、取締役会でどのように監督されているかということについてですが、あと役員報酬ですね、それをどうテーマとして捉えているかということでした。

これは山口さんから。

山口明則 [A]：山口ございます。

社外取締役の皆さんも非常に監督機能、モニタリングの面を重視されておまして、われわれもモニタリング重視の取締役会となることを重視して、今、進めておるところでございます。

と言いましても、意思決定もやはり重要な観点で捉えておるのですが、今は取締役会の中に、ほかの会社よりは幅広く案件を持ち込みまして、そこでいろいろ議論していただいています。

その議論によって、社外取締役の当社に対するご理解がさらに深まっているものと認識しています。ご本人がお持ちのバックグラウンド、経験だけではなくて、取締役会を通じて当社を深く理解していただくというところを含めて、モニタリング機能はすごく高まりつつあるのではないかと考えております。

二つ目は報酬への転嫁の話だったと思いますが、今日も紹介しましたが、われわれはマテリアリティでKPIをいくつか挙げ、その全てに担当役員を設定し、その達成度に応じて、短期業績連動に反映できるような形で報酬を決定しております。

石原 [A]：今後も、株式との連動も含めて、すでに導入している部分はありますが、さらに検討していくことが課題かと考えています。

二つ目は、人的資本の労働安全性についてのお話でした。強度率の、この低減の方策についての説明については、山口さんから。

山口明則 [A]：強度率、度数率について、確かにまだまだやらなくてはいけないことがあるのではないかと、冒頭のご指摘だったと思います。それはそのとおりだと考えております。

ひとつには、これまでやっておる活動に加えて、この分野にもテクノロジーを導入することができないかという検討を進めており、それがこれから大きく貢献してくるのではないかと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



もうひとつは、全ての災害はもちろん発生してはいけないのですが、災害の中にも対応への優先度があると考えております。われわれが本当にこれは起こってはいけないという対応の優先度が高い災害を抽出し、その災害に対する強度率をターゲットにして活動を進めております。今年度、昨年までに比べて比較的改善されており、計画通り重点施策が功を奏しつつある状況であると考えております。

石原 [A]：重点課題は、6 つに災害の原因を絞って、それを削減していくという取り組みに、KPI を見直しました。

3 つ目の、リサイクル材、特にボディパネルについて、リサイクルの促進に技術的な課題があるかということでした。

では、これは野瀬さん。

野瀬 [A]：自動車用のボディパネルに関しまして、リサイクル材をより多く使い、環境負荷を低減したような環境配慮材のご提供においての課題との認識です。

まずお客様の加工工程で発生するスクラップに関しましては、クローズドループと弊社が呼んでいる手法で、成分が明確な状態で当社に戻していただくことができます。これは、比較的容易に使い回すことができます。

その一方で、将来にわたって、より高い割合でリサイクル材を活用するためには、他の製品のスクラップ等も使用していくことが今後必要になると思われれます。そうした原料を使った状態においても、自動車のボディで求められるような鋭い特性が発現できるか、そういったものが将来の課題になってくるものと考えております。

石原 [A]：石原です。

アルミ缶は市場に出れば、およそ 4 カ月でまた市場から戻ってきます。ところが、ボディパネル、車においては、野瀬が申したようにお客様のインハウスでのスクラップは入手できますが、販売された車の寿命は 10 年以上ありますし、日本で車の寿命が尽きる場合と、海外で尽きる場合がございいます。こういったものをどう回収し、かつ分別していくかという課題が、大きくこれからクローズアップされてくるのだろうと考えます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、UBS 証券株式会社、五老様、よろしく願いいたします。

五老 [Q]：UBS 証券の五老でございます。よろしく願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

お時間もありますので、大きくひとつというところで、「UACJ SMART」についてお伺いしたい
と思います。去年、発表されたブランディング戦略のお話だと思うのですが、今日ご説明されてき
た、例えばこのリサイクル缶につきましても、そのアピールの一つなのかなと捉えています。

お話の中では、マスバランス法を用いた認証などの検討といったご説明も出てきたのですが、私の
理解では、「UACJ SMART」は、いわゆる新領域ビジネスになっていく主力のコンセプトなのか
なと考えているのですが、例えばどういった時間軸で、どれくらいの規模感で、どういったライン
ナップを中心に出していくつもりなのか。ビジネス化のプロセスというところをもう少し踏み込ん
でご説明いただけたらというのが大きな質問です。

例えば、2030年、CO₂削減をターゲットのひとつとしているわけですが、そこに向けてのこの製
品比率や、認証を得るための外部機関、ユーザーからの要求、例えば自動車メーカーなどで、すで
に鉄鋼製品などでは、ローカーボン素材の取得、契約をするような事例ももうニュース出始めてい
ると思うのですが、そういったユーザーからの理解といいますか、との取り組み、こういったところ
の、より実現性に向けての確信といいますか、ご説明いただけたらというのが最後です。よろし
くお願いします。

石原 [M]：ありがとうございます。リサイクルを中心にして事業を展開する。それが新領域でのビ
ジネスになっていくのではなかろうかというお話の中で、それを具体的に、どうルールメイキング
を含めたり、社外との指標の整合性を含めたりしながら展開していくのだということでした。

そこに関しては、隈元からご説明します。

隈元 [A]：まず、「UACJ SMART」についての今後の展開というところですが、まさしくおっしゃ
るとおり、新領域の中で、この「UACJ SMART」を一つマスターブランドとして、一番上位に位
置付けるブランドとして取り組んでいこうと考えております。

どのようなブランディングで浸透を目指すか、出し方はこれから検討してまいります。缶に UACJ
とプリントいただいたように、これはお客様との対話によるものですが、イングリーディエント・
ブランディングとして、当社の製品が売れていくことが究極的なゴールです。アルミがもっと使わ
れていくような仕組み、あるいは仕掛けを考えていこう、やっっていこうという話を始めていると
ころでございます。

そのプロセスの中で、認証、第三者認定がやはり必要だということも出てきます。お客様がそれを
レバレッジとして、さらにその先の消費者にアピールしにいくのだということであれば、柔軟に認
証を取った商品をお出しする、供給申し上げるということ是对応していきたいと思っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



石原 [A]：具体的な事例として、「origami」というワークブースがありますが、これもいろいろな基準を達成する、あるいはルールを、認証を取ってきた事例です。一つ一つ、そういう課題に対して解決をしながら対応していくということ。これが2030年に当社が「UACJ VISION 2030」を実現するにあたって、具体的に、これから一つ一つ実現していくことだろうと考えています。

五老 [M]：ありがとうございます。先ほどご説明の中にも、例えばクリーン地金を確保するのは、実は供給が限られていてタイトであるというご説明もあったのですが、御社のこういったクリーンな圧延材というところで、需給がタイトになるような考え方といますか、流れは十分あり得るのかなと思ってまして、より数字など含めて、ビジネスの規模感が具体化してくるのを期待しております。よろしくお願いいたします。

石原 [M]：ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

以上のご質問にて、最後とさせていただきます。今後のお問い合わせにつきましては、IR部までお願いいたします。

これをもちまして、株式会社UACJ、ESG説明会を終了させていただきます。本日はお忙しいところご参加をいただき、誠にありがとうございました。

今後も、全てのステークホルダーの皆様のご期待に沿えるようを邁進してまいりますので、引き続き、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

